文部科学省
国立教育政策研究所
National Institute for Educational Policy Research

いじめ追跡調査 2004－2006

いじめQ&A

平成21年4月

国立教育政策研究所生徒指導研究センター

目　次

はじめに　3

本冊子について　4

■いじめに、ピークはあるか？　5
■学校による、起きやすさはあるか？　6
■学年集団による、起きやすさはあるか？　7
■子どもによる、起きやすさはあるか？　8
■いじめに向かわせる要因は、何か？　10
■全ての行為を、対象にすべきなのか？　12

【参考資料】　13

■調査の概要　14

■ 2004 ～ 2006 年度　小学校　いじめ被害経験率　16
■ 2004 ～ 2006 年度　小学校　いじめ加害経験率　18
■ 2004 ～ 2006 年度　中学校　いじめ被害経験率　20
■ 2004 ～ 2006 年度　中学校　いじめ加害経験率　22

■ 2004 年度　小学校４年生　いじめ被害経験率推移　24
■ 2004 年度　小学校４年生　いじめ加害経験率推移　26
■ 2004 年度　中学校１年生　いじめ被害経験率推移　28
■ 2004 年度　中学校１年生　いじめ加害経験率推移　30

はじめに

文部科学省が毎年行っている『児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査』（いわゆる『問題行動調査』）によれば、平成 19 年度のいじめの認知件数は 101,127 件と、前年度の 124,898 件と比べて 23,771 件の減少となっていますが、依然として憂慮すべき状態にあると言えます。また、近年、特に問題になっている「ネットいじめ」の例に象徴されるとおり、いじめの多くが大人の目には「見えにくい」形で行われており、十分な形で認知できているかどうかについても、常に問い直しが求められていると言えます。文部科学省の調査に関しても、「アンケートや個別面談を実施」することが強調されるなど、適切な方法で実態を把握する努力が求められています。

いじめの学術研究において、そうしたいじめの実態把握に最も適した方法とされているのが、自記式の質問紙調査です。教師や他の子どもからの報告やインタビュー、観察等に基づく方法ではなく、子ども自らが回答する形式のアンケート調査が、客観性や比較可能性等の点で優れているとの理由で、広く用いられています。国立教育政策研究所では、この自記式質問紙調査法により、いじめやそれに関連する要因についての定点観測的な調査を、組織改編前の国立教育研究所時代（1998 年）から、継続的に行ってきました。大都市近郊にあり、住宅地や商業地のみならず、農地等も域内に抱える地方都市の小中学校 19 校に在籍する児童生徒全員 (小学校４年生以上) を対象に、同じ内容を尋ねた調査を年に２回ずつ、定期的に行ってきたのです。

その目的は、日本全体の状況を推測する際の根拠となりうるデータの収集・蓄積にあります。同時に、この調査は、匿名性を維持しつつ、個人を特定して追跡できるように設計されており、いじめに関して語られることの多い言説の真偽の検証にも用いることができるようになっています。

この追跡調査のうち、1998 年～ 2003 年にかけて行われた 6 年間分の結果については、既に国立教育政策研究所と文部科学省の共催による「平成 17 年度教育改革国際シンポジウム」において報告され、その内容は国立教育政策研究所／文部科学省編『平成 17 年度教育改革国際シンポジウム「子どもを問題行動に向かわせないために　―いじめに関する追跡調査と国際比較を踏まえて―」(報告書)』(平成 18 年)、に収録されています。本冊子は、それに引き続き行われた調査の中から、2004～2006 年の３年間の結果について分析を行うとともに、学校現場等で役立つような知見にまとめたものです。

現在、この調査については 2008 年分までが実施済みで、引き続き 2009 年も調査を行うと共に、こうしたデータを踏まえた未然防止のための研究も併せて行っているところです。本来ならば、2004 年からの６年間分のデータを蓄積し、また効果的な未然防止策の研究も終了した後の 2010 年以降に報告書を公表していくところではありますが、部分的にではあっても少しでも早く結果をお知らせすることが大切であろうと考え、2004 年から 2006 年までの３年間を一区切りとして整理した結果を、本冊子にまとめました。

この冊子をお読みいただくことにより、皆さんのいじめに対する認識が深まり、それぞれの取組が一層進んでいくことを願っています。

平成 21 年４月

国立教育政策研究所生徒指導研究センター長
中岡　司

本冊子について

〇本冊子の目的

いじめのような問題（第三者には「見えにくい」問題）について、その実態や発生メカニズムを明らかにしようとする際には、児童生徒に対する何らかの調査が不可欠です。また、調査を実施する場合でも、１回限りで終わる単発の調査結果を安易に一般化することには危険が伴いますから、同一対象に対して複数回の調査を繰り返すこと、定期的に調査を行うことも必要になります。しかも、複数回の結果をただ並列するだけでは、傾向は明らかになっても、その奥にある変容過程までは明らかになりません。したがって、詳細な分析を行うためには、個人を特定できる形で追跡的に調査を行うことも必要になってきます。

ところが、いじめのようにデリケートな問題を、上に述べたような理想的な形で、とりわけ個人を特定できる形で各学校が実施しようとすると、児童生徒が本当のことを答えない（被害経験を答えることによって更にいじめがエスカレートすることを恐れる、加害経験を答えることによってしっ責されることを恐れる、等）可能性があります。

国立教育政策研究所生徒指導研究センターでは、そのような各学校現場で直接に得ることが困難なデータを各学校や教育委員会等に代わって収集･蓄積するために、いじめの追跡調査を継続的に行っています。本冊子は、そうした調査の中から、2004 ～ 2006 年の３年間、計６回にわたる結果を、広く活用していただくことを目的として、まとめられたものです。

〇本冊子の構成

６回にわたる膨大なデータをただ羅列しただけでは､そこから何が明らかになっているのかが分かりにくいことでしょう。そこで、本冊子では、前半と後半の２部構成とし、追跡調査ならではのデータ分析から得られる知見によって、いじめに関する「よくある誤解」を払しょくしていただけるように配慮しました。

まず、前半部分では、いじめに関する素朴な疑問や、陥りやすい勘違い等を取り上げ、それに対して回答するという「Ｑ＆Ａ形式」を採っています。３年間分のデータを再集計したり図示したりした図表を用いて、いじめの実態をより具体的かつ正確に把握してもらえるようにしました。

後半部分では、この調査がどのように行われたのかをまとめた概要と、調査結果の単純集計（いじめに関する項目のみ）を収録しています。小学校と中学校を別々に、また男女別に、各回ごとの構成比を棒グラフで示しており、小学校と中学校という学校段階による違いだけでなく、３年間の学年進行に伴う変容についてもご覧いただけるようになっています。

※単純集計結果の表示は、以下のような色分けになっています。

・小学校の４～６年生までの３学年分を集計したものと、中学校の１～３年生までの３学年分を集計したもの
　→薄青色のグラフ

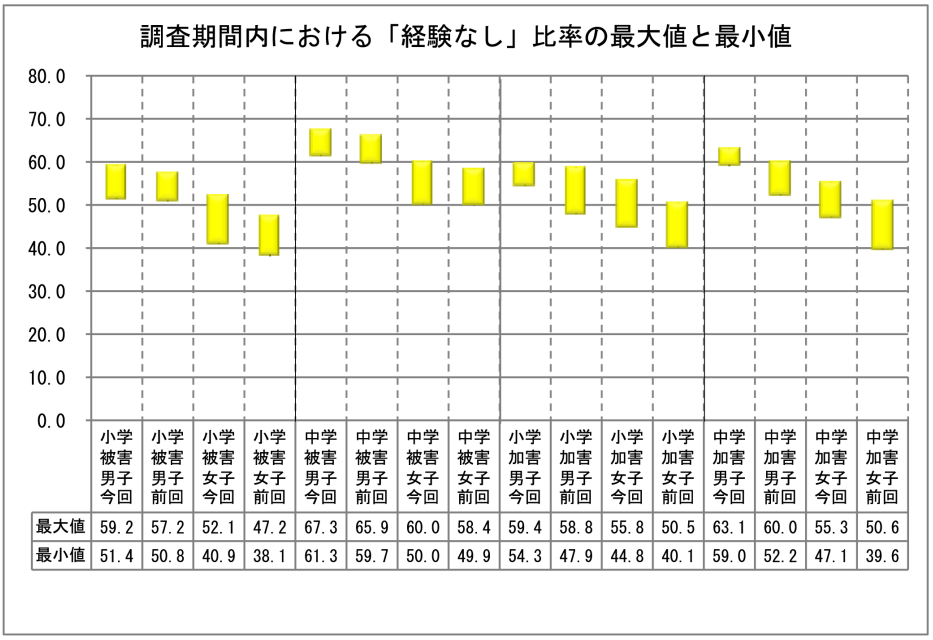
・2004 年度の小学校４年生が６年生になるまでの３年間の変容と、2004 年度の中学校１年生が３年生になるまでの３年間の変容を示したもの
　→オレンジ色のグラフ

■いじめに、ピークはあるか？

Q 2006年秋に、いじめが社会問題化したことを「いじめの第3のピーク」と表現することがありますが、いじめにピークは存在するのでしょうか？

A 今回の追跡調査（2004-2006年）、また前回の追跡調査（1998-2003年）の結果を見る限り、「いじめにピークがあったとは考えにくい」と言わざるを得ません。調査時期によって、若干の変動はありますが、むしろ「似たような割合で子どもたちはいじめを経験している」と言うことができるでしょう。

巻末の参考資料には、6種類のいじめの被害経験率と加害経験率を、小学校（4年生～6年生）と中学校（1年生～3年生）の男女別に、2004年6月から2006年11月までの6回に分けて示してあります（16～23頁）。毎回の数値にこだわるのでなく、変動の幅を大づかみに見ていただくと、ピークがないことが分かるはずです。下の図は、その一例で、「仲間はずれ、無視、陰口」の経験について、「ぜんぜんなかった」と答えた割合に着目し、その最大値と最小値の幅を示したものです。



	小学被害男子今回	小学被害男子前回	小学被害女子今回	小学被害女子前回	中学被害男子今回	中学被害男子前回	中学被害女子今回	中学被害女子前回	小学加害男子今回	小学加害男子前回	小学加害女子今回	小学加害女子前回	中学加害男子今回	中学加害男子前回	中学加害女子今回	中学加害女子前回
最大値	59.2	57.2	52.1	47.2	67.3	65.9	60.0	58.4	59.4	58.8	55.8	50.5	63.1	60.0	55.3	50.6
最小値	51.4	50.8	40.9	38.1	61.3	59.7	50.0	49.9	54.3	47.9	44.8	40.1	59.0	52.2	47.1	39.6

「仲間はずれ、無視、陰口」の経験率

まず、図の左半分の被害経験から見ていきましょう。今回の3年間分の結果からは、小学校男子の「経験なし」の比率は51.4～59.2%の幅に入っていたことが示されています。その隣には前回の6年間分の調査における比率が50.8～57.2%の幅に入っていたことが示されています。同様に、今回の小学校女子では40.9～52.1%、前回は38.1～47.2%の幅であったことが分かります。また、今回の中学校男子では61.3～67.3%、前回は59.7～65.9%、今回の中学校女子では50.0～60.0%、前回は49.9～58.4%の幅であったことが分かります。

次に、右半分の加害経験について見てみると、今回の小学校男子では54.3～59.4%、前回は47.9～58.8%、今回の小学校女子では44.8～55.8%、前回は40.1～50.5%、今回の中学校男子では59.0～63.1%、前回は52.2～60.0%、今回の中学校女子では47.1～55.3%、前回は39.6～50.6%の幅となっています。

これを見る限り、大きく増えているとか減っていると言うよりも、ある程度の幅の中に落ち着いているように見えるのではないでしょうか。また、巻末の参考資料を見ていただければ、どの種類のいじめを取り上げてみても同様のことが言えること、さらに3年間の中で最も被害経験率が高いのは2004年の秋から2005年にかけてであること、2006年は春秋ともにそれより低い経験率になっていること、がお分かりいただけることと思います。少なくとも、2006年にピークがあったとは言いがたいことは明白であり、それ以外の年を見比べても著しい増加や減少が見られるわけではなく、マスコミ報道の影響やそれを受けた大人の対応の影響さえもが子どもの実態には関係がなかったようです。

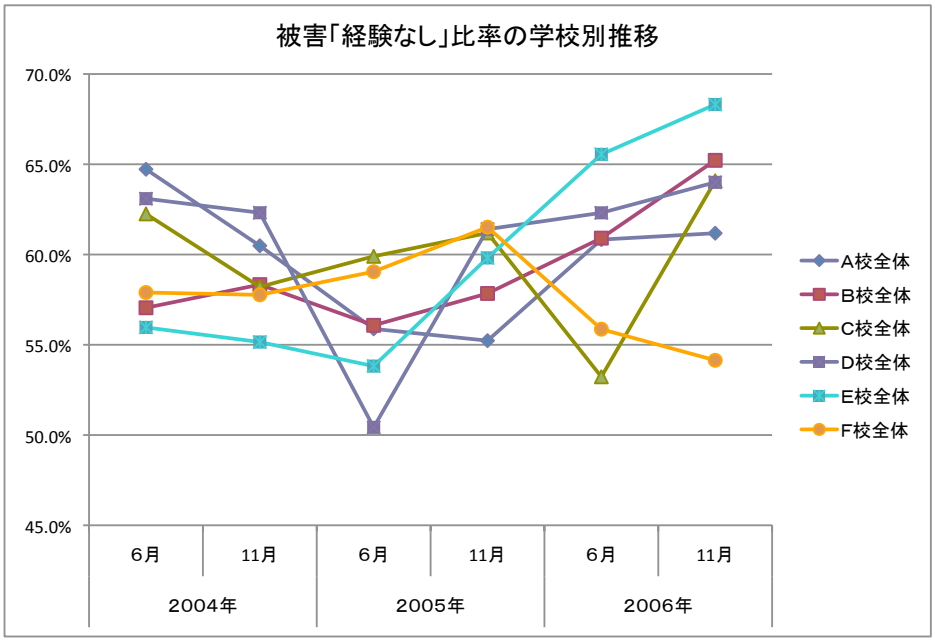
このように追跡調査で確認する限り、「2006年秋に向かっていじめのピークがあった」とか、「今はそのピークを過ぎて落ちついている」といった見方は妥当でないことが分かります。1996年1月の文部大臣の緊急アピールにあるとおり、「深刻ないじめは、どの学校にも、どのクラスにも、どの子どもにも起こりうる」という見方が正しいと言えるのです。

■学校による、起きやすさはあるか？

Q 市全体で見た場合に大きな変化がなくとも、各学校単位で見た場合には、いじめ経験率の多い学校と少ない学校、いじめが起きやすい学校とそうでない学校、という偏りがあるのではないでしょうか？

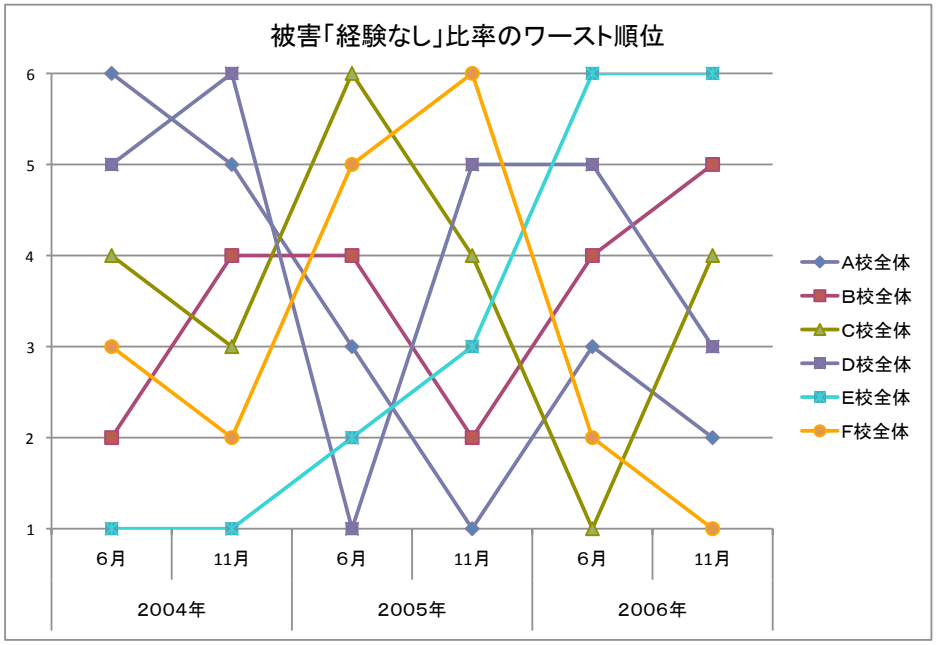
A 確かに、すべての学校が、それぞれの調査時点で示される市内の小学校全体、中学校全体の数字と同じような経験率を示すわけではありません。そこには、偏りがあります。しかしながら、この質問が、特定の中学校により多く起きているのではないか、という意味合いでなされているとしたら、答えは「ノー」です。地域的な「格差」といった表現で言い表されるような偏りは見られないのです。

中学校を例にとって、学校別に経験率の推移を眺めてみましょう。下の図には、「仲間はずれ、無視、陰口」の被害経験が「ぜんぜんなかった」と答えた割合について、３年間の推移を学校別に示してあります。



「仲間はずれ、無視、陰口」の経験率

ちなみに、経験率の代わりにそれを順位（ワースト１～６）で示し、その入れ替わりを見たのが、次の図です。このように単純化しても、ほぼ同じ傾向を読み取れることが分かります。



「仲間はずれ、無視、陰口」の経験率

これと同じことは、加害経験の場合にも、小学校の場合にも見られます。こうした結果から分かるように、いじめが多い学校でもそれを減らすことは可能であること、反対に少ない学校といえども、半年後に多くならないという保証はないことが分かります。いじめについては、「どの学校にも起こりうるもの」という意識で臨むことが必要なのです。

■学年集団による、起きやすさはあるか？

Q 学校現場では、「今年、入学してくる１年生は大変な学年らしい」「今度の５年生は問題が多い」といったことが言われたりしますが、いじめに関しても問題の多い学年というのがあるのではないでしょうか？

A そうしたことがあるかどうかを確かめるために、前ページの学校別と同様の手順で、中学校について学校・学年別に経験率の推移を見てみましょう。ただし、学校と学年の組み合わせは 18 組となり、経験率自体を折れ線グラフにしても煩雑になってしまいます。そこで、順位のみの推移を見ていくことにします。ここで問題になっているような傾向の有無を確認するのならこれで代用できることは、前ページをご覧いただければ納得していただけるでしょう。

下の表は、「仲間はずれ、無視、陰口」の被害経験が「ぜんぜんなかった」と答えた割合について、３年間の推移を学校・学年別に示してあります。また、年度をまたいで特定の学年を追いかけやすくするため、2004 年度入学の１年生については、色を付けて分かりやすくしてあります。

「仲間はずれ、無視、陰口」の経験率

被害「経験なし」の学校学年別ワースト順位と比率						
	２００４年		２００５年		２００６年	
	６月	11 月	６月	11 月	６月	11 月
A 校１年	14(65.1%)	4(47.0%)	2(43.0%)	2(47.8%)	12(64.2%)	5(58.2%)
A 校２年	9(58.2%)	15(64.1%)	13(59.3%)	4(50.0%)	2(47.3%)	2(54.3%)
A 校３年	17(69.0%)	17(70.5%)	17(64.2%)	16(68.8%)	16(68.7%)	15(69.5%)
B 校１年	10(58.8%)	7(58.7%)	11(55.4%)	3(49.4%)	9(59.5%)	6(60.6%)
B 校２年	2(52.7%)	6(55.7%)	8(54.7%)	11(59.7%)	6(57.0%)	12(66.1%)
B 校３年	12(59.6%)	10(60.5%)	12(58.4%)	13(65.4%)	14(66.3%)	16(69.7%)
C 校１年	1(52.3%)	5(48.4%)	5(52.7%)	11(44.5%)	1(45.1%)	3(54.9%)
C 校２年	15(66.7%)	8(59.7%)	7(54.5%)	12(60.9%)	5(53.9%)	8(63.2%)
C 校３年	16(67.4%)	16(65.7%)	18(71.6%)	18(76.6%)	10(59.5%)	18(73.5%)
D 校１年	13(64.7%)	3(46.1%)	10(54.9%)	7(57.4%)	18(71.4%)	9(63.3%)
D 校２年	4(53.5%)	9(60.5%)	3(43.4%)	10(59.5%)	8(59.5%)	7(62.9%)
D 校３年	18(71.7%)	18(82.5%)	4(52.5%)	15(67.2%)	7(57.4%)	10(65.4%)
E 校１年	3(52.9%)	1(42.8%)	9(54.9%)	5(50.8%)	13(66.0%)	13(67.0%)
E 校２年	8(58.0%)	11(60.7%)	1(42.8%)	6(54.1%)	11(63.7%)	11(65.9%)
E 校３年	5(56.9%)	12(61.9%)	16(63.3%)	17(74.4%)	15(67.1%)	17(72.2%)
F 校１年	11(59.1%)	2(44.0%)	14(61.3%)	8(57.7%)	3(49.1%)	1(39.0%)
F 校２年	6(57.1%)	14(63.6%)	6(54.1%)	9(59.3%)	17(70.6%)	14(67.7%)
F 校３年	7(57.4%)	13(63.5%)	15(61.7%)	14(66.9%)	4(49.1%)	4(56.4%)

ここから分かるとおり、同じ年度内の順位を比較しても、かなりの変動が見られます。そして、３年間の学年進行の中では、2004 年度のＣ校の１年生のようにワースト１位から出発し、18 位まで改善されることさえあります。もちろん、これはその学校の先生方の努力のたまものと言えるでしょう。Ｅ校の１年生も、同じような過程を辿っていることが分かります。

しかしながら、Ｄ校の１年のように、たとえば、ワースト 13 位だったものが次には３位へと悪化、その後も３位→ 10 位→７位→ 10 位と、悪化と改善を繰り返す場合もあります。Ｆ校の１年生も、同じような過程を辿っています。

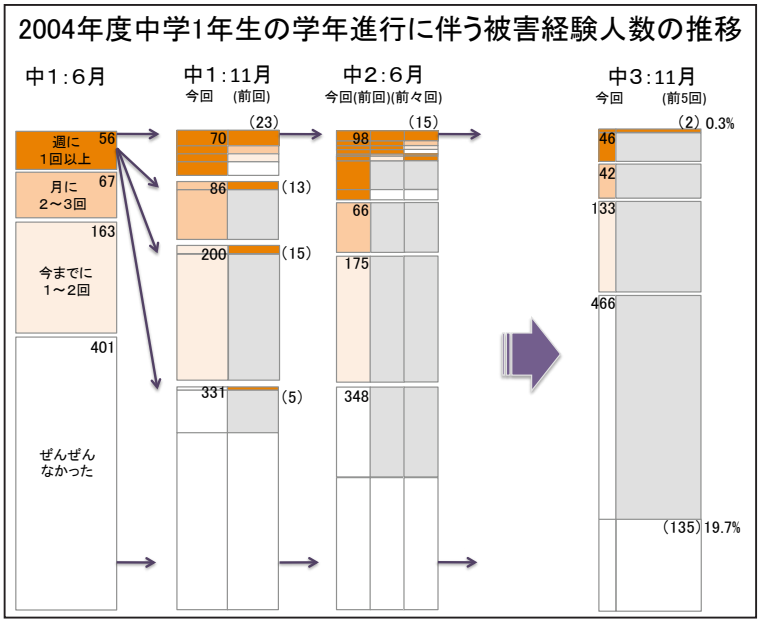
これと同様の変動が、加害経験の場合にも、小学校の場合にも見られることは、言うまでもありません。「何か特別な問題や背景があるから、いじめが起きる」というような考え方ではなく、そうした「問題の有無とはさほど関係なく、いじめは起きうる」「ちょっとしたきっかけで、いじめは起きてしまう、広がってしまう」といった見方が、いじめ問題に向き合う際には求められます。「仲間はずれ、無視、陰口」や「いやがらせやいたずら」のように、経験率の高いいじめ行為の場合であればあるほど、そうした見方が必要になるでしょう。

■子どもによる、起きやすさはあるか？

Q 「いじめっ子」「いじめられっ子」という表現があるように、どのクラスにも何人かはいる「気になる子ども」が被害や加害を繰り返しているだけのような気がするのですが、本当に「どの子どもにも起きうる」のでしょうか？

A 1980 年代には、「こんな子が、いじめっ子になる、いじめられっ子になる」といった言い方が、さしたる根拠もないままになされることがありました。また、海外では、今なお、そうした考えが根強いと言えます。しかし、日本では、1990 年代初めまでには、一部の子どもだけが被害に遭ったり加害行為を繰り返したりしているわけではないことが明らかになり、1996 年の文部大臣の緊急アピールにおいても明言されていることは、繰り返すまでもないでしょう。

「いじめられやすい子ども」が存在するかどうかを確かめるため、2004 年度の中学 1 年生が中学校の 3 年間でどのように被害に遭うのか、「仲間はずれ、無視、陰口」を例に追跡的に示したのが下の図です。もし、いわゆる「いじめられっ子」が存在するならば、彼らは毎回の調査で繰り返し被害を訴えていると考えられます。また、そうした子どもが存在するならば、恐らくは、「週に 1 回以上」という高頻度の被害に遭っている可能性も高いと思われます。



「仲間はずれ、無視、陰口」の経験率

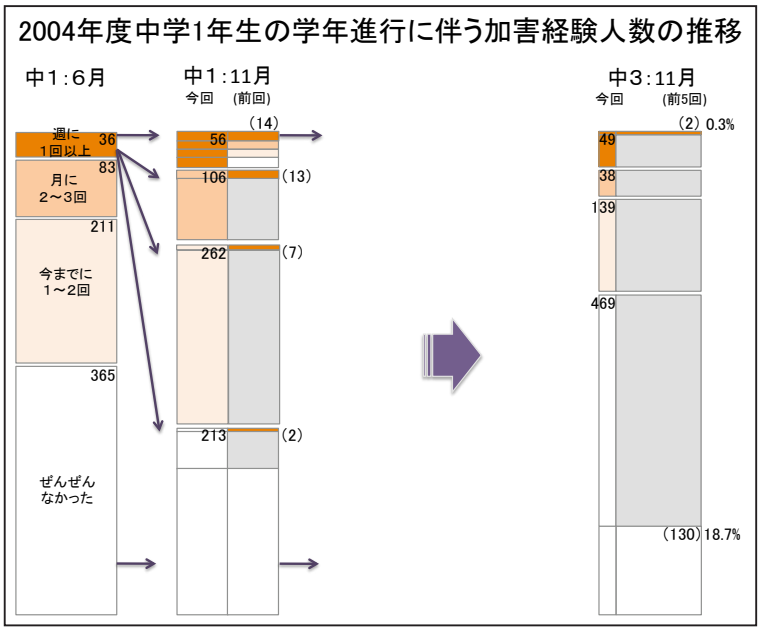
（単位は「人」。なお、図中の灰色部分は内訳を省略したことを示す。以下、同じ）

ところが、この図から分かるとおり、この学年の中で、「週に 1 回以上」という高頻度の被害経験があると答えた生徒は、毎回 50 ～ 100 名（7 ～ 14%）程度存在するにもかかわらず、それが半年後まで続くのは半分以下なのです。まず、1 年生時の 6 月には 56 名だったのが、その年の 11 月には 70 名に増えているにもかかわらず、前回に引き続き高頻度の被害経験があるのは 23 名にとどまります。残りの 33 名（＝ 56 名－ 23 名）は、「月に 2 ～ 3 回」に減ったのが 13 名、「（新学期になってから）今までに 1 ～ 2 回」が 15 名、「ぜんぜんなかった」が 5 名、という具合に変わるのです。ちなみに、2 年生時の 6 月には高頻度のいじめ経験者はさらに増えて 98 名にまでなっていますが、やはり前回（1 年生時の 11 月）に引き続きという者は半分以下に減り、前々回（1 年生時の 6 月）から 3 回ともという者は 15 名です。そして、4 回目（2 年生時の 11 月）と 5 回目（3 年生時の 6 月）を省略し、3 年生時の 11 月を見た場合、6 回とも「週に 1 回以上」の被害経験があった者は 2 名（0.3%）にとどまります。

つまり、比率から言えば、毎回「クラスに 3 ～ 6 名」程度の割合の子どもが被害に遭っている計算ですが、常習的な被害者と考えられるのは 1000 名につき 3 名という数です。つまり、「クラスに数名程度」の「気になる子ども」が「毎回、被害に遭っている」といったイメージとは大きく異なり、被害者は毎回大きく入れ替わっているのです。

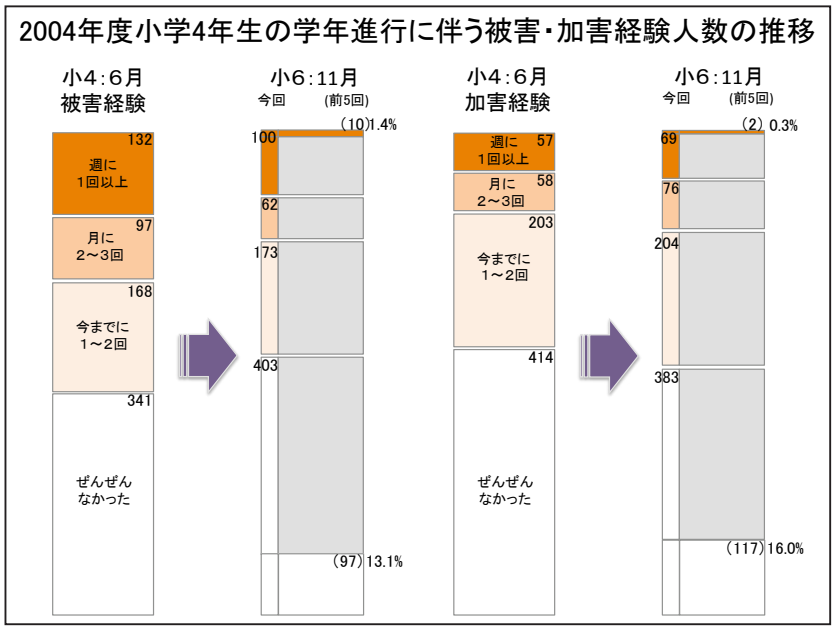
反対に「ぜんぜんなかった」と答えた生徒についても見ておきましょう。この場合も、当初は 401 名（58.4%）だったのが、最終的には 135 名（19.7%）にまで減ります。つまり、中学校 3 年間の間に、何の被害経験もなかったのは 2 割以下、8 割以上の生徒は「仲間はずれ、無視、陰口」の被害を、ある時期に何らかの頻度で経験したことが分かります。

では、加害者については、どうなのでしょうか。この場合も、「週に 1 回以上」という高頻度の加害経験があると答えた生徒は、毎回 35 ～ 85 名（5 ～ 12%）程度いるにもかかわらず、半年後も引き続き経験があると答えた者は半分以下なのです。まず、1 年生時の 6 月には 36 名だったのが、11 月には 56 名に増えているにもかかわらず、前回から加害行為が継



「仲間はずれ、無視、陰口」の経験率

続しているのは 14 名にとどまり、残る 22 名（＝ 36 名－ 14 名）は、「月に２～３回」に減ったのが 13 名、「（この学期の初めから）今までに１～２回」が７名、「ぜんぜんなかった」が２名という具合に変わるのです。最終的に、３年生時の 11 月まで考えた場合、「週に１回以上」が６回とも継続したのは２名（0.3%）にとどまります。「クラスに数名いる気になる子どもが、毎回、加害を繰り返す」というイメージとは異なり、毎回の入れ替わりが大きいのです。そして、「ぜんぜんなかった」と答えた生徒も、当初は 365 名（52.5%）だったのが、３年間の間に減少し続けて 130 名（18.7%）にまで減ります。やはり、中学校３年間の間に、８割以上の生徒が「仲間はずれ、無視、陰口」の加害に加わっていることが分かります。いじめ経験の多くは、一般的な暴力とは異なり、見るからに攻撃的な子ども、乱暴な子どもだけが行う行為というわけではないのです。



「仲間はずれ、無視、陰口」の経験率

こうした状況は、小学校においても何ら変わりません。高頻度のいじめ被害・加害を繰り返す特定の子どもはごく一部であり、被害者・加害者ともに大きく入れ替わることがお分かりいただけるでしょう。小学生の場合には、中学生よりも更に多くの子ども（85%前後）が、どこかの時期に何らかの頻度の被害経験や加害経験を持っているのです。

いじめというのは、ほとんどすべての子どもが被害を受けたり、加害行為に加わったりという形で巻き込まれていく問題です。一般的な暴力のイメージでいじめ問題に取り組もうとすることは、自ら問題を「見えにくく」することにほかなりません。「どの子どもにも起きうる」といことを、文字通りの意味で受け止めていくことが大切でなのす。

■いじめに向かわせる要因は、何か？

Q「個別の問題を抱えているような、一部の子どもだけがいじめ加害に加わるわけではない」ということは分かりましたが、それでは多くの子どもがいじめに向かう原因は何だと考えればよいのでしょうか？

A 誰もがいじめに巻き込まれるということは、家庭環境や個人的な資質に問題があるかどうかとは必ずしも関係なく、その時々の状況でいじめが起きていることを意味します。では、どのような状況が生まれたときに、子どもは加害行為に向かうのでしょうか。加害行為と関連の深い要因を探っていくと、ストレスやストレッサー（ストレスをもたらす要因）との関連が浮かび上がってきます。下に示したのは、中学生のいじめ加害経験と各種ストレス・ストレッサーとの相関係数です（2006 年 6 月のデータを使用）。

相関係数というのは、ある要因が変化する時にもう一方の要因もそれと関連して変化する時、両者の間に相関関係があると表現し、その強さを示すために用いられます。たとえば、身体の大きな人ほど食事の量も多い、といった関連がどの程度強いのかを確かめたい場合などに用います。ここでは、６種類のいじめの加害経験と、子どもが感じているストレスやストレッサーとの間に、どのくらいの関連があるのかを確かめる目的で用いています。

なお、相関係数は数字が大きいほど、その間に関連が強いことを示し、一般に 0.3 を超えると強い関連があると言われています。また、有意確率というのはそうした値の確からしさを示し、小さな値ほど確からしいことを意味します。下の表で、相関係数に ** や＊が付いていて、しかも数字が大きい場合、それらの項目間の関連が強いと考えられます。それを一目で分かるように、0.2 以上の相関係数を示すものに色をつけてあります。

この表を見ると、いじめとストレス・ストレッサーとの関連は、必ずしも強くは見えないかも知れません。そこが、いじめという行為について調査する場合の難しさです。ストレスやストレッサーといった要因がいじめ加害の背景にあったとし

中学校男子		身体的ストレス	抑鬱・不安ストレス	不機嫌怒りストレス	無気力ストレス	ストレッサー教師	ストレッサー友人	ストレッサー勉強	ストレッサー部活	ストレッサー家庭
仲間はずれ、無視、陰口	相関係数	.171**	.207**	.306**	.201**	.228**	.320**	.207**	.183**	.165**
	有意確率	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	1211	1208	1210	1211	1204	1209	1203	1191	1192
からかう・悪口	相関係数	.156**	.163**	.254**	.203**	.252**	.335**	.187**	.140**	.180**
	有意確率	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	1209	1206	1208	1209	1202	1207	1201	1189	1190
軽くぶつかる・叩く・蹴る	相関係数	.126**	.156**	.255**	.171**	.181**	.267**	.202**	.155**	.178**
	有意確率	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	1208	1205	1207	1208	1201	1206	1200	1188	1189
ひどくぶつかる・叩く・蹴る	相関係数	.120**	.149**	.220**	.141**	.144**	.197**	.165**	.101**	.112**
	有意確率	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	1207	1204	1206	1208	1200	1205	1199	1187	1188
金銭強要・器物損壊	相関係数	.107**	.147**	.144**	.112**	.070*	.105**	.090**	.059*	.075**
	有意確率	.000	.000	.000	.000	.015	.000	.002	.044	.010
	N	1206	1203	1205	1206	1199	1204	1198	1186	1187
パソコン・携帯	相関係数	.058*	.099**	.101**	.107**	.090**	.076**	.095**	.046	.063*
	有意確率	.044	.001	.000	.000	.002	.008	.001	.113	.032
	N	1191	1188	1190	1191	1184	1189	1183	1171	1172
中学校女子		**身体的ストレス**	**抑鬱・不安ストレス**	**不機嫌怒りストレス**	**無気力ストレス**	**ストレッサー教師**	**ストレッサー友人**	**ストレッサー勉強**	**ストレッサー部活**	**ストレッサー家庭**
仲間はずれ、無視、陰口	相関係数	.157**	.189**	.302**	.207**	.216**	.304**	.285**	.249**	.167**
	有意確率	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	1203	1204	1200	1201	1200	1206	1201	1188	1205
からかう・悪口	相関係数	.122**	.161**	.225**	.175**	.231**	.315**	.221**	.199**	.154**
	有意確率	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	1204	1205	1201	1202	1201	1207	1202	1189	1206
軽くぶつかる・叩く・蹴る	相関係数	.116**	.119**	.194**	.128**	.139**	.209**	.153**	.105**	.097**
	有意確率	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.001
	N	1202	1203	1199	1200	1199	1205	1200	1187	1204
ひどくぶつかる・叩く・蹴る	相関係数	.049	.084**	.112**	.058*	.112**	.151**	.119**	.068*	.070*
	有意確率	.090	.004	.000	.044	.000	.000	.000	.019	.016
	N	1202	1203	1199	1200	1199	1205	1200	1187	1204
金銭強要・器物損壊	相関係数	.074*	.085**	.091**	.064*	.122**	.139**	.068*	.056	.062*
	有意確率	.010	.003	.002	.028	.000	.000	.018	.053	.031
	N	1199	1200	1196	1197	1196	1202	1197	1184	1201
パソコン・携帯	相関係数	.102**	.109**	.124**	.086**	.107**	.134**	.070*	.049	.039
	有意確率	.000	.000	.000	.003	.000	.000	.015	.093	.180
	N	1190	1191	1187	1188	1187	1193	1188	1175	1192

**. 相関係数は 1% 水準で有意（両側）です。　■>.300　■>.250　□>.200
*. 相関係数は 5% 水準で有意（両側）です。

ても、ストレスの高さがすぐさまいじめ行為に結びつくとは限らないからです。いくらストレスが高くて、それを発散したいと感じたとしても、適当な相手（自分よりも弱くて、都合の良い口実・きっかけがある、等）と、適当な方法（自分にとっては簡単で、大人に見つかりにくく、見つかっても言い逃れができそうな、等）がなければ、加害行為に及ぶわけにはいかないからです。

男女共に相関係数が低いのは、「金銭強要・器物損壊」「パソコン・携帯」です。これは、そうした行為に及ぶ児童生徒が少ないことから予想できるとおり、そうした行為に及ぶ際のハードルが高いことを意味していると考えられます。そして、女子の場合にはやはりハードルが高いけれども、男子の場合には多少低くなるのが、「ひどくぶつかる・叩(たた)く・蹴(け)る」です。そして、それに続くのが、「軽くぶつかる・叩(たた)く・蹴(け)る」です。女子にとっては男子よりハードルが高いことは変わりませんが、先の３つと比べれば差は小さくなります。そして、男女共に容易に実行できるのは「仲間はずれ、無視、陰口」「からかう・悪口」ということが分かります。

このように解釈することの正しさは、下の表に示した小学校の場合を見ていくことで、裏付けられると言えるでしょう。小学校のうちは、女子であっても「ひどくぶつかる・叩(たた)く・蹴(け)る」や「軽くぶつかる・叩(たた)く・蹴(け)る」の相関係数がそれなりに高いからです。つまり、中学生にもなると、女子が腕力を行使するのは、「世間体」等から困難になってくるものと考えられるのです。

ここから得られる知見は、いじめの未然防止に有効となる対策は、①ストレスの原因となるストレッサーを減らすこと、②ストレスがあっても行為に及ばないようハードルを高くする（規範意識を高める）こと、の二通りが中心になるであろうということです。

小学校男子		身体的ストレス	抑鬱・不安ストレス	不機嫌怒りストレス	無気力ストレス	ストレッサー教師	ストレッサー友人	ストレッサー勉強	ストレッサー家庭
仲間はずれ、無視、陰口	相関係数	.103**	.138**	.253**	.172**	.121**	.299**	.209**	.224**
	有意確率	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	1250	1252	1258	1256	1237	1250	1237	1233
からかう・悪口	相関係数	.148**	.191**	.320**	.239**	.159**	.307**	.205**	.238**
	有意確率	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	1250	1252	1258	1256	1237	1250	1237	1233
軽くぶつかる・叩く・蹴る	相関係数	.129**	.164**	.278**	.227**	.134**	.264**	.212**	.194**
	有意確率	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	1245	1247	1254	1251	1232	1246	1233	1228
ひどくぶつかる・叩く・蹴る	相関係数	.095**	.128**	.229**	.208**	.102**	.226**	.195**	.170**
	有意確率	.001	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	1249	1251	1257	1255	1236	1249	1236	1232
金銭強要・器物損壊	相関係数	.105**	.159**	.159**	.144**	.156**	.126**	.121**	.115**
	有意確率	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	1247	1250	1255	1253	1234	1247	1234	1230
パソコン・携帯	相関係数	.124**	.150**	.121**	.083**	.126**	.139**	.129**	.071*
	有意確率	.000	.000	.000	.003	.000	.000	.000	.013
	N	1236	1238	1244	1242	1224	1236	1223	1220
小学校女子		身体的ストレス	抑鬱・不安ストレス	不機嫌怒りストレス	無気力ストレス	ストレッサー教師	ストレッサー友人	ストレッサー勉強	ストレッサー家庭
仲間はずれ、無視、陰口	相関係数	.124**	.140**	.264**	.167**	.276**	.195**	.228**	.194**
	有意確率	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	1205	1211	1214	1211	1203	1213	1205	1203
からかう・悪口	相関係数	.089**	.127**	.244**	.141**	.174**	.191**	.162**	.176**
	有意確率	.002	.000	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	1205	1211	1214	1211	1203	1213	1205	1203
軽くぶつかる・叩く・蹴る	相関係数	.064*	.099**	.240**	.128**	.126**	.110**	.135**	.120**
	有意確率	.026	.001	.000	.000	.000	.000	.000	.000
	N	1204	1210	1213	1210	1202	1212	1204	1202
ひどくぶつかる・叩く・蹴る	相関係数	.068*	.076**	.192**	.138**	.070*	.093**	.167**	.200**
	有意確率	.019	.008	.000	.000	.016	.001	.000	.000
	N	1206	1212	1215	1212	1204	1214	1206	1204
金銭強要・器物損壊	相関係数	.066*	.055	.127**	.095**	.047	.097**	.107**	.106**
	有意確率	.022	.057	.000	.001	.104	.001	.000	.000
	N	1204	1210	1213	1210	1202	1212	1204	1202
パソコン・携帯	相関係数	.084**	.124**	.092**	.115**	.077**	.121**	.098**	.066*
	有意確率	.004	.000	.001	.000	.008	.000	.001	.023
	N	1198	1204	1207	1204	1196	1206	1198	1197

**. 相関係数は 1% 水準で有意（両側）です。　■>.300　■>.250　□>.200
*. 相関係数は 5% 水準で有意（両側）です。

■全ての行為を、対象にすべきなのか？

Q こうした調査を実施すると、子どもたちはささいな行為までをも「いじめ」と答えることになりがちです。また、未然防止を行うとなると、相手が多いほど大変になります。たとえば、「週に１回以上」といった高頻度の行為だけを問題にする、高頻度の行為が繰り返される事例を見つけ出して対応する、という考え方ではいけないでしょうか？

A これまでも、「深刻ないじめは、どの学校、どのクラス、どの子どもにも起こりうる」ことが明言されてきました。そして、この提言が科学的な裏付けのあるものであることが改めて確認された今、とられるべき対応・対策は、おのずから未然防止中心のものにならざるを得ません。その際、「たった一度であっても、いじめに変わりはない」「その１回が致命的だったかも知れない」と考えていくことが大切であることは言うまでもないでしょう。しかし、それではあまりにも大変ではないか、という気持ちも理解できます。そこで、そうした「正解」をひとまず棚上げし、少し丁寧に考えてみることにしましょう。恐らく、「正解」だけでは納得しない教職員や保護者、子どもたちもいると考えられるからです。

この議論は、被害経験と加害経験とでは、大きく異なります。まず、被害経験から考えてみましょう。確かに、「（新学期になってから）今までに１～２回」にとどまっているのであれば、そして本人もそれを受け止め切れているのであれば、大騒ぎしなくともよい、というのは、多くの人が合意できることではないでしょうか。人間関係にトラブルは付き物です。特に、社会に出れば、利害の対立するような相手や、反りの合わない相手とも一緒に仕事をする必要があります。少しくらいの意地悪には負けないだけの耐性を身に付けていくことも大切なことです。いじめを容認するわけではありませんが、そうした意地悪を受け流せる知恵や技術が必要ということも確かです。あくまでも「本人がそれを受け止め切れている」ことが確認できていればという前提での話ですが、頻度の少ない、ダメージの少ない被害については、大人が気にかけておくにとどめることもあり得るでしょう。なお、本人から被害の訴えがあったり、相談があったりした場合には、「本人がそれを受け止め切れていない」ことが明白ですから、速やかな対応が求められます。様子を見る必要などはなく、適切な対応が取られなければなりません。

では、加害経験については、どう考えていけばよいのでしょうか。はっきりと断っておきますが、被害経験と同じ論法は通用しない、同じように考えてはならない、と言えます。たとえ、頻度の少ない、ダメージの少ない加害行為といえども、決して許してはなりません。なぜなら、相手（受ける側）が自分（行う側）と同じように感じるとは限らないからです。自分にとっては「軽い気持ち」でも、相手にとっては「深い傷」になることがあります。さらに、複数の者が同時期に同じことをした場合、被害者にとっては「週に１回以上」の危害を受けるに等しくなります。理由はともあれ、加害側が意図的に意地悪をしたのであれば、頻度や程度にかかわりなく、それを許してはなりません。仮に、意図していなかった場合でも、それが相手を傷つけたことについては、加害側に自覚させる必要があります。いずれの場合であれ、何もしないで放置することはもちろん、気にかけておく程度で済ませてはなりません。

そうなると、従来の暴力や非行に対応する際のように、数名の子どもにだけ注意を払っていればよいということではなくなります。その場合、どの子どもにも真剣に注意を払っていくことは、とても不可能なことのように思われるかも知れません。しかし、誰が被害者になりそうか、加害者になりそうかを考える必要はないのですから、むしろ話は単純なのです。1000人に３人という高頻度のいじめを繰り返す（いじめが繰り返される）子どもを、予測したり、早期に探し出したりしようとするから、専門的な知識が必要であるかのような話になり、解決が困難であるかのような印象を受けるのです。

すべての児童生徒を対象に、健全な社会性をはぐくむとともに、当たり前のことを当たり前に行っていく、善いことは善い、悪いことは悪いと伝えていく、というのは、学校教育の本来の活動です。今、求められているのは、教育の専門家である教職員にとって最も得意な活動をしていくことです。深刻ないじめかどうかを区別するということではなく、深刻であろうが無かろうが、そうしたことが起きないようにすべきである、起きた後の対応に力を注ぐのではなく、起きにくくするための努力こそが重要である　―　こうした考えに立つ時、求められる対応というのは、被害者を守るという意味での未然防止策ではなく、加害者にさせないという意味での未然防止策になるはずです。加害者がいなくなれば、おのずから被害者もいなくなるからです。

【参考資料】

■調査の概要

■ 2004 ～ 2006 年度　小学校　いじめ被害経験率
■ 2004 ～ 2006 年度　小学校　いじめ加害経験率
■ 2004 ～ 2006 年度　中学校　いじめ被害経験率
■ 2004 ～ 2006 年度　中学校　いじめ加害経験率

■ 2004 年度　小学校 4 年生　いじめ被害経験率推移
■ 2004 年度　小学校 4 年生　いじめ加害経験率推移
■ 2004 年度　中学校 1 年生　いじめ被害経験率推移
■ 2004 年度　中学校 1 年生　いじめ加害経験率推移

■　調査の概要

○ 2003 年以前からの変更点

今回、紹介する追跡調査（2004-2006 年）は、前回までの追跡調査[1]（1998-2003 年）に引き続き、国立教育政策研究所が「定点観測」的に行っている、いじめを中心とした児童生徒の実態とその変容過程を把握する目的で実施されている質問紙調査です。

定点観測という性格から、調査地域はこれまでと同一で、調査の内容も過去のデータとの比較可能性を重視しています。その一方で、国際比較を行ったり、新たな形態のいじめについても対応できるようにしていく関係で、それ以前の調査票の質問文や選択肢に若干の変更を加えました。2003 年までの追跡調査との整合性を保ちつつ、新たに加えられた修正は以下のようなものです。（右ページの資料も、併せて参照のこと）

1．質問文の前に、「いじめ」という語を用いない説明文を加えることで、海外の調査においても日本国内においても、日本で従来から問題にされてきたいじめ行為に焦点化された回答が得られるようにした。

もともと、この調査では、質問文の中に「いじめた」とか「いじめられた」という語を用いずに、問題となる行為を具体的に尋ねることにより、いじめという語に対して個々人が抱くイメージの差に左右されないよう配慮し、私たちが問題にしたい、いじめ行為に焦点化された回答が得られるように工夫してきました。

しかし、国際比較を行うに当たり、海外における bullying のイメージと日本のいじめのイメージのズレを調整する必要が出てきました。海外でいう bullying には、日本では暴力行為（校内暴力）として扱われる中身も含まれているため、bullying の語といじめの語がイコールであるかのような暗黙の前提で調査を行ったのでは、正しい比較ができません。しかも、海外の調査では bullying の語が質問文の中に含まれる例が多く、私たちが行ってきたような配慮を欠いた調査が少なくありませんでした。

そこで、海外においても、日本において問題にされてきたいじめ行為に焦点化された回答を得るために、質問文の前にいじめや bullying という語を用いない説明文を加え、問題となる行為を具体的に尋ねる方式に変更しました。

2．新しい形態のいじめに対応するため、また海外で多い暴力行為にも対応できるよう、尋ねるいじめ行為の種類を増やした。

日本では頻度の少ないひどい暴力行為については、金銭強要と併せて「エ」で尋ねていました。もともと、いじめと呼ぶには暴力色・犯罪色が強い行為だったからです。しかし、2004 年以降は「エ」と「オ」に分け、海外との比較が可能となるようにしました。また、当時はあまり知られていなかった「ネットいじめ」に対応するために、「カ」の項目を増やしました。そして、「イ」については説明文の表現とのかねあいで、「ウ」については新しい「エ」との兼ね合いで、表現を改めました。

3．従来の選択肢は、4 択であったが、5 択の選択肢に変更した。

従来は、週に数回、月に数回、学期に数回、なしという間隔で選択肢を作っていましたが、国際比較を行う際に、行為の頻度が高い海外の共同研究者から、週に何度も、週に 1 回、月に数回、なしの間隔に変更したいとの申し出がありました。日本では、週に何度もという頻度は少なく、反対に学期に 1 ～ 2 回くらいの頻度が高いことが分かっていましたので、海外の共同研究者の主張する区分では不適当です。そこで、2005 年度分以降の調査票では選択肢を 5 択に変更し、従来の項目との比較に際しては、「1 週間に何度も」と「1 週間に 1 回」を集計時に合計し、「週に 1 回以上」と表記することにしました。

○調査の時期、サンプル、実施方法

調査の時期

6 月末と 11 月末の年に 2 回、新学期が始まってから（もしくは、夏休みが明けてから）3 ヶ月弱の時期にそろえています。ただし、同一日を指定しているわけではなく、学校間で若干の幅があります。

調査の対象

首都圏にある一つの市のすべての小学校（13 校）と中学校（6 校）に在籍する、小学校 4 年生から中学校 3 年生までの全児童生徒です。1 学年当たりの児童生徒数は、学年や年度によって異なりますが、概ね 800 名前後で、大きな変動はあ

1　調査結果は、国立教育政策研究所／文部科学省編『平成 17 年度教育改革国際シンポジウム「子どもを問題行動に向かわせないために　―いじめに関する追跡調査と国際比較を踏まえて―」（報告書）』平成 18 年、に収録されています。

○ 2003 年以前の調査票（例に挙げたのは、被害経験を尋ねたもの。以下、同様）

問５　二学期になってから、次にあげるようなことを学校の友だちからされたことがどのくらいありましたか。
ア～エのそれぞれについて、一番近いと思う番号に一つずつ○をつけていってください。

	週に1回以上	月に2～3回	今までに1～2回	まったくされていない
ア　仲間はずれにされたり、無視されたり、かげで悪口を言われたりした	1	2	3	4
イ　いやがらせやいたずらをされた（落書きをされたり、物をかくされたり、など）	1	2	3	4
ウ　わざとぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、けられたりした	1	2	3	4
エ　お金や物をとられたり、ひどくたたかれたり、けられたりした	1	2	3	4

○ 2004 年以降の調査票（選択肢は 2005 年以降の 5 択。2004 年は、以前と同じ 4 択）

皆さんは、学校の友だちのだれかから、いじわるをされたり、イヤな思いをさせられたりすることがあると思います。
そうしたいじわるやイヤなことを、みんなからされたり、何度も繰り返されたりすると、そうされた人はどうしてよいかわからずにとても苦しい思いをしたり、みんなの前で恥ずかしい目にあわされてつらい思いをしたりします。
これから皆さんに質問するのは、そうしたいじわるやイヤなことを、むりやりされた体験や、反対に弱い立場の友だちにあなたがした体験についてです。

問９　いじわるやイヤなことには、いろいろなものがあります。あなたは、新学期になってから学校の友だちのだれかから、次のようなことをどのくらいされましたか。ア～カのそれぞれについて、一番近いと思う数字に、一つずつ○をつけていってください。

	1週間に何度も	1週間に1回くらい	1か月に2～3回くらい	今までに1～2回くらい	ぜんぜんされなかった
ア．仲間はずれにされたり、無視されたり、陰で悪口を言われたりした	1	2	3	4	5
イ．からかわれたり、悪口やおどし文句、イヤなことを言われたりした	1	2	3	4	5
ウ．軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩(たた)かれたり、蹴(け)られたりした	1	2	3	4	5
エ．ひどくぶつかられたり、叩(たた)かれたり、蹴(け)られたりした	1	2	3	4	5
オ．お金や物を盗(と)られたり、壊(こわ)されたりした	1	2	3	4	5
カ．パソコンや携帯電話で、イヤなことをされた	1	2	3	4	5

りません。また、私立中学校への進学もわずかですので、ほぼ市内全域の児童生徒を網羅していると考えることができます。

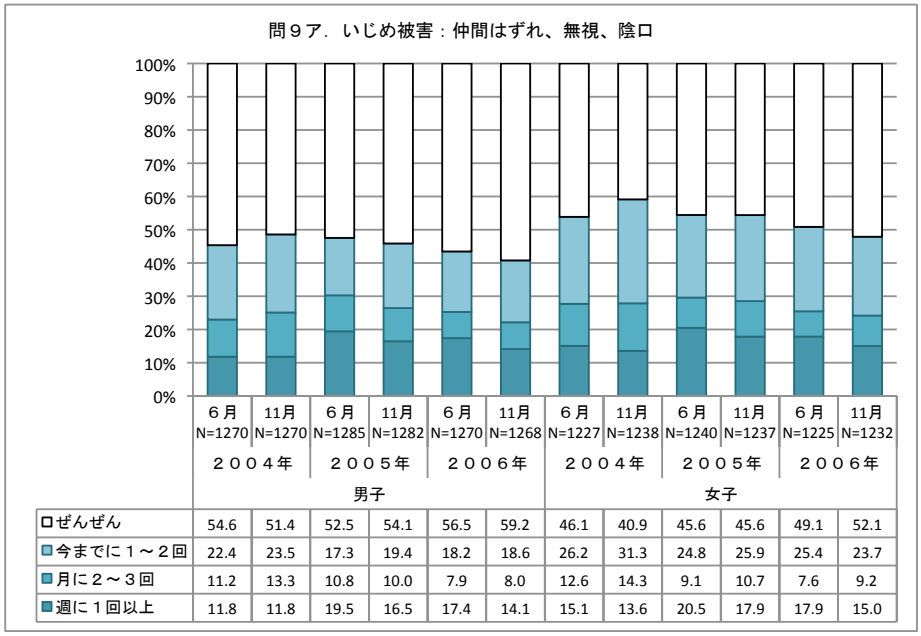
調査の実施

学級単位で一斉に行います。この調査自体は、個々の児童生徒の変容を追跡できるように記名式で行われていますが、教師や友人の目を意識して回答をためらうことのないよう、調査票の配付時にシール付きの封筒を配付し、回答後は各自で速やかに封入できるような配慮を行い、回答の精度を上げるように配慮されています。ほとんどの児童生徒が小学校４年生の時からこの調査を体験済みですので、小学校の高学年以降になっても、この調査票に本当のことを答えても不都合は生じない（しかられたりはしない）という安心感の下に回答していることが期待できます。

質問項目

いじめに関する内容のほか、学校や集団への適応感、ストレス、ストレスをもたらす要因、相談相手の有無、等が含まれています。

■ 2004 ～ 2006 年度　小学校　いじめ被害経験率

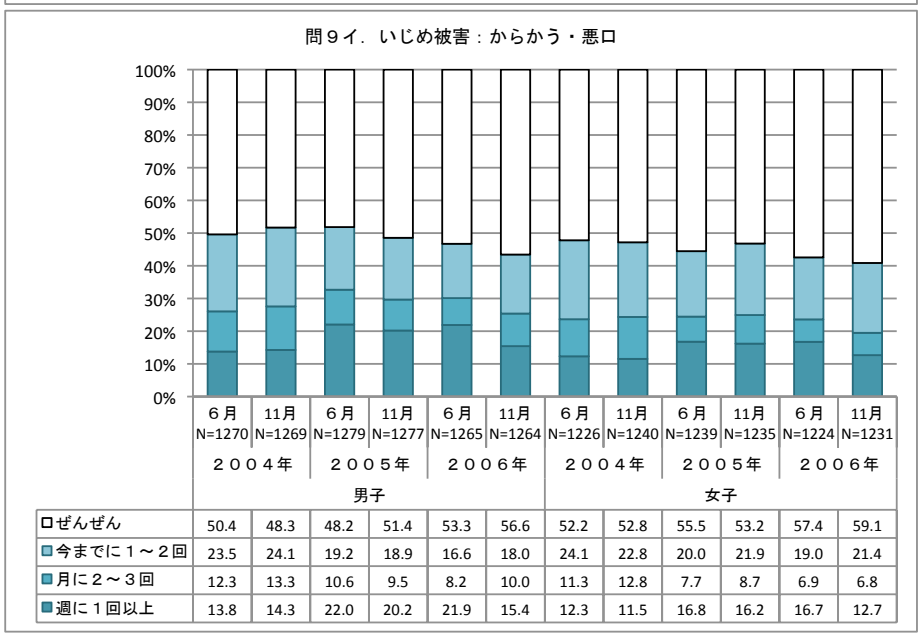


	男子 ６月 N=1270	男子 11月 N=1270	男子 ６月 N=1285	男子 11月 N=1282	男子 ６月 N=1270	男子 11月 N=1268	女子 ６月 N=1227	女子 11月 N=1238	女子 ６月 N=1240	女子 11月 N=1237	女子 ６月 N=1225	女子 11月 N=1232
	２００４年		２００５年		２００６年		２００４年		２００５年		２００６年	
□ぜんぜん	54.6	51.4	52.5	54.1	56.5	59.2	46.1	40.9	45.6	45.6	49.1	52.1
□今までに１～２回	22.4	23.5	17.3	19.4	18.2	18.6	26.2	31.3	24.8	25.9	25.4	23.7
□月に２～３回	11.2	13.3	10.8	10.0	7.9	8.0	12.6	14.3	9.1	10.7	7.6	9.2
□週に１回以上	11.8	11.8	19.5	16.5	17.4	14.1	15.1	13.6	20.5	17.9	17.9	15.0

○仲間はずれ・無視・陰口

男女共に被害経験率は高いですが、やや女子に多い傾向が窺えます。

この３年間に、大きな変動はありませんが、全体の被害は 2004 年秋が相対的に高かったことが分かります。ただし、頻度の高い被害に着目すると、2005 年春も高いと言えます。

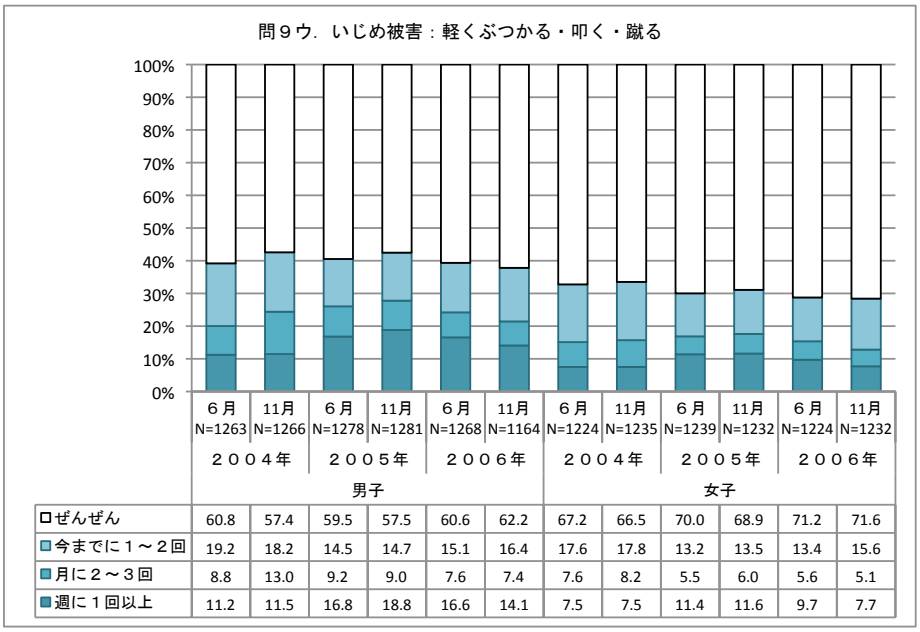


	男子 ６月 N=1270	男子 11月 N=1269	男子 ６月 N=1279	男子 11月 N=1277	男子 ６月 N=1265	男子 11月 N=1264	女子 ６月 N=1226	女子 11月 N=1240	女子 ６月 N=1239	女子 11月 N=1235	女子 ６月 N=1224	女子 11月 N=1231
	２００４年		２００５年		２００６年		２００４年		２００５年		２００６年	
□ぜんぜん	50.4	48.3	48.2	51.4	53.3	56.6	52.2	52.8	55.5	53.2	57.4	59.1
□今までに１～２回	23.5	24.1	19.2	18.9	16.6	18.0	24.1	22.8	20.0	21.9	19.0	21.4
□月に２～３回	12.3	13.3	10.6	9.5	8.2	10.0	11.3	12.8	7.7	8.7	6.9	6.8
□週に１回以上	13.8	14.3	22.0	20.2	21.9	15.4	12.3	11.5	16.8	16.2	16.7	12.7

○からかう・悪口

男女共に被害経験率は高いですが、やや男子に多い傾向が窺えます。

この３年間に、大きな変動はありませんが、頻度の高い被害に着目すると、2005 年春から 2006 年春にかけて相対的に高かったことが分かります。



	男子 ６月 N=1263	男子 11月 N=1266	男子 ６月 N=1278	男子 11月 N=1281	男子 ６月 N=1268	男子 11月 N=1164	女子 ６月 N=1224	女子 11月 N=1235	女子 ６月 N=1239	女子 11月 N=1232	女子 ６月 N=1224	女子 11月 N=1232
	２００４年		２００５年		２００６年		２００４年		２００５年		２００６年	
□ぜんぜん	60.8	57.4	59.5	57.5	60.6	62.2	67.2	66.5	70.0	68.9	71.2	71.6
□今までに１～２回	19.2	18.2	14.5	14.7	15.1	16.4	17.6	17.8	13.2	13.5	13.4	15.6
□月に２～３回	8.8	13.0	9.2	9.0	7.6	7.4	7.6	8.2	5.5	6.0	5.6	5.1
□週に１回以上	11.2	11.5	16.8	18.8	16.6	14.1	7.5	7.5	11.4	11.6	9.7	7.7

○軽くぶつかる・叩く・蹴る

日本の場合、３番目に被害経験率が高い行為ですが、他の国では最も経験率の高い行為である場合が多いと言えます。

やや男子に多い傾向が窺えます。

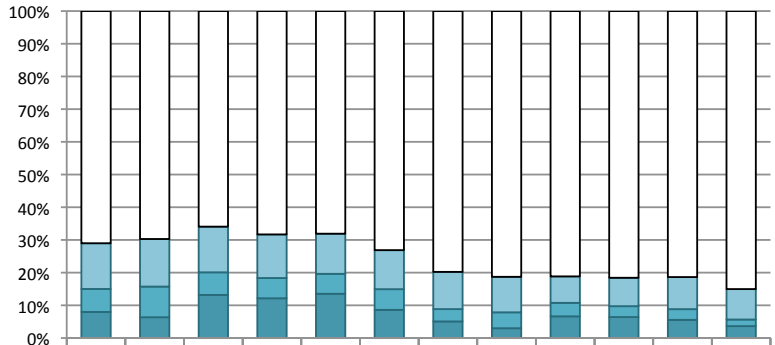
この３年間に、大きな変動はありませんが、全体の被害は 2004 年秋が相対的に高かったことが分かります。ただし、頻度の高い被害に着目すると、2005 年秋も高いと言えます。

○ひどくぶつかる・叩く・蹴る

男子の被害経験率が高い傾向が窺えます。

この３年間に、大きな変動はありませんが、全体の被害も頻度の高い被害も、2005 年春から 2006 年春にかけて相対的に高かったことが分かります。

問９エ．いじめ被害：ひどくぶつかる・叩く・蹴る



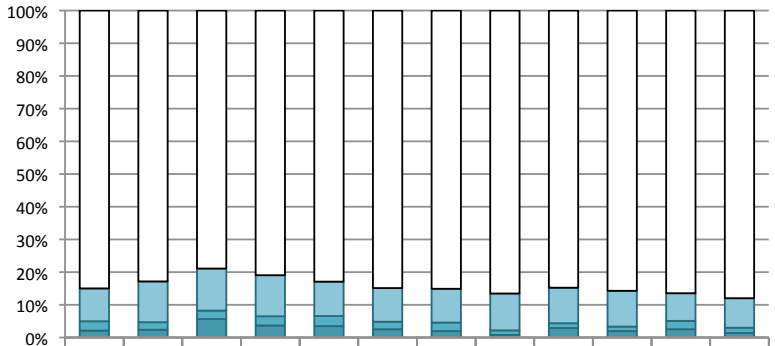
	男子						女子					
	６月 N=1266	11月 N=1258	６月 N=1274	11月 N=1275	６月 N=1263	11月 N=1165	６月 N=1221	11月 N=1234	６月 N=1236	11月 N=1232	６月 N=1223	11月 N=1236
	２００４年		２００５年		２００６年		２００４年		２００５年		２００６年	
ぜんぜん	71.0	69.7	65.9	68.3	68.1	73.1	79.8	81.3	81.1	81.6	81.4	85.0
今までに１～２回	14.0	14.5	14.0	13.3	12.3	11.9	11.4	10.9	8.1	8.7	9.8	9.3
月に２～３回	7.0	9.4	6.9	6.2	6.1	6.3	3.8	4.9	4.1	3.3	3.3	2.0
週に１回以上	8.0	6.4	13.2	12.2	13.5	8.6	5.1	3.0	6.6	6.4	5.6	3.6

○金銭強要・器物損壊

男女共に被害経験率は低いですが、やや男子に多い傾向が窺えます。

この３年間に、大きな変動はありませんが、全体の被害も頻度の高い被害も、2005 年春が相対的に高かったことが分かります。

問９オ．いじめ被害：金銭強要・器物損壊



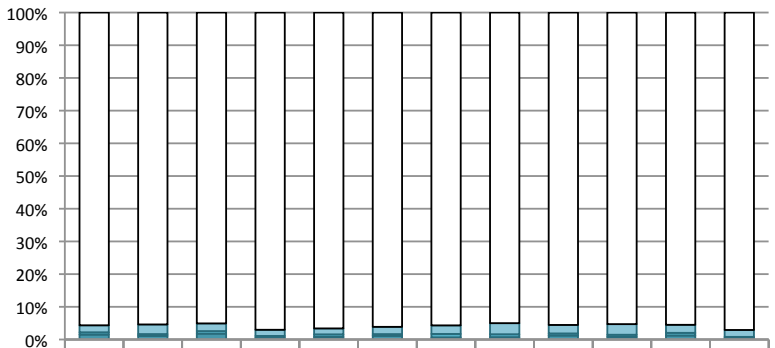
	男子						女子					
	６月 N=1265	11月 N=1259	６月 N=1275	11月 N=1275	６月 N=1264	11月 N=1163	６月 N=1221	11月 N=1233	６月 N=1234	11月 N=1225	６月 N=1218	11月 N=1231
	２００４年		２００５年		２００６年		２００４年		２００５年		２００６年	
ぜんぜん	85.0	82.8	78.9	80.9	82.9	84.9	85.1	86.5	84.8	85.7	86.5	88.0
今までに１～２回	10.0	12.5	12.9	12.5	10.5	10.3	10.3	11.3	10.9	10.9	8.5	9.0
月に２～３回	2.8	2.3	2.6	2.8	3.1	2.3	2.6	1.4	1.5	1.4	2.5	1.6
週に１回以上	2.1	2.4	5.6	3.7	3.5	2.5	2.0	0.8	2.9	2.0	2.5	1.4

○パソコン・携帯

男女共に、最も被害経験率が低い行為です。

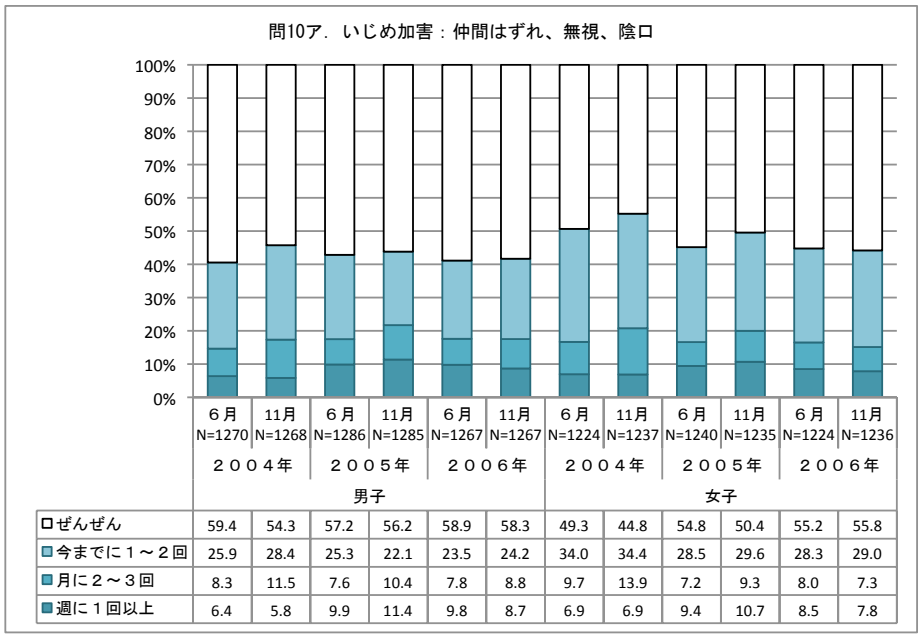
この３年間に、大きな変動はありません。

問９カ．いじめ被害：パソコン・携帯



	男子						女子					
	６月 N=1265	11月 N=1259	６月 N=1279	11月 N=1277	６月 N=1267	11月 N=1266	６月 N=1226	11月 N=1239	６月 N=1235	11月 N=1232	６月 N=1224	11月 N=1233
	２００４年		２００５年		２００６年		２００４年		２００５年		２００６年	
ぜんぜん	95.7	95.4	95.1	97.0	96.6	96.1	95.7	95.0	95.5	95.3	95.5	97.1
今までに１～２回	2.1	2.9	2.3	1.9	1.8	2.2	2.6	3.4	2.6	3.2	2.5	2.1
月に２～３回	0.7	0.6	0.8	0.6	0.8	0.5	1.1	0.9	0.6	0.6	0.8	0.3
週に１回以上	1.5	1.1	1.8	0.5	0.8	1.2	0.7	0.7	1.2	0.8	1.2	0.5

■ 2004 ～ 2006 年度　小学校　いじめ加害経験率

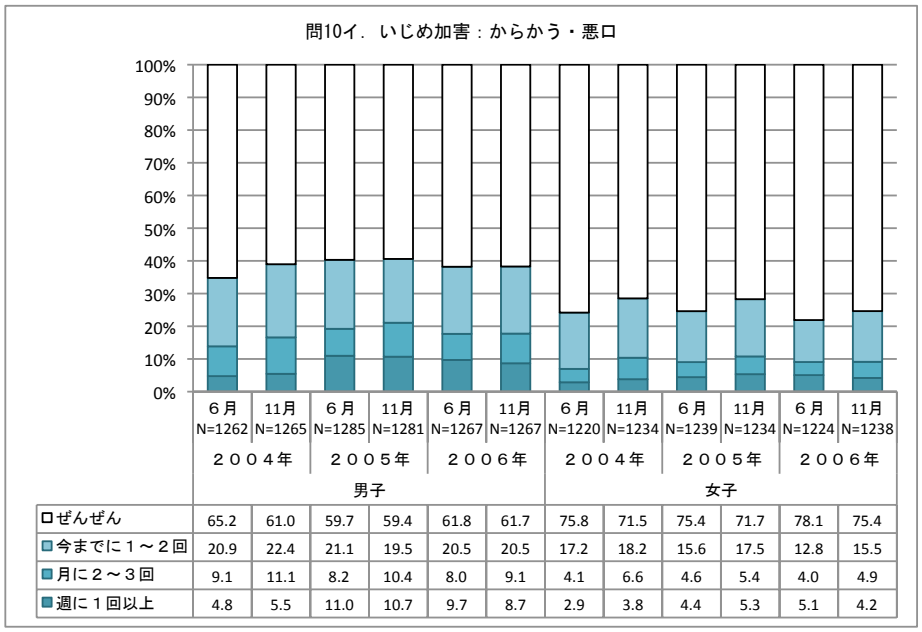


	男子						女子					
	６月 N=1270	11月 N=1268	６月 N=1286	11月 N=1285	６月 N=1267	11月 N=1267	６月 N=1224	11月 N=1237	６月 N=1240	11月 N=1235	６月 N=1224	11月 N=1236
	２００４年		２００５年		２００６年		２００４年		２００５年		２００６年	
ぜんぜん	59.4	54.3	57.2	56.2	58.9	58.3	49.3	44.8	54.8	50.4	55.2	55.8
今までに１～２回	25.9	28.4	25.3	22.1	23.5	24.2	34.0	34.4	28.5	29.6	28.3	29.0
月に２～３回	8.3	11.5	7.6	10.4	7.8	8.8	9.7	13.9	7.2	9.3	8.0	7.3
週に１回以上	6.4	5.8	9.9	11.4	9.8	8.7	6.9	6.9	9.4	10.7	8.5	7.8

○仲間はずれ・無視・陰口

男女共に加害経験率は高いですが、やや女子に多い傾向が窺えます。

この３年間に、大きな変動はありませんが、全体の加害は 2004 年秋が相対的に高かったことが分かります。ただし、頻度の高い加害を加味すると、2005 年秋も高いと言えます。

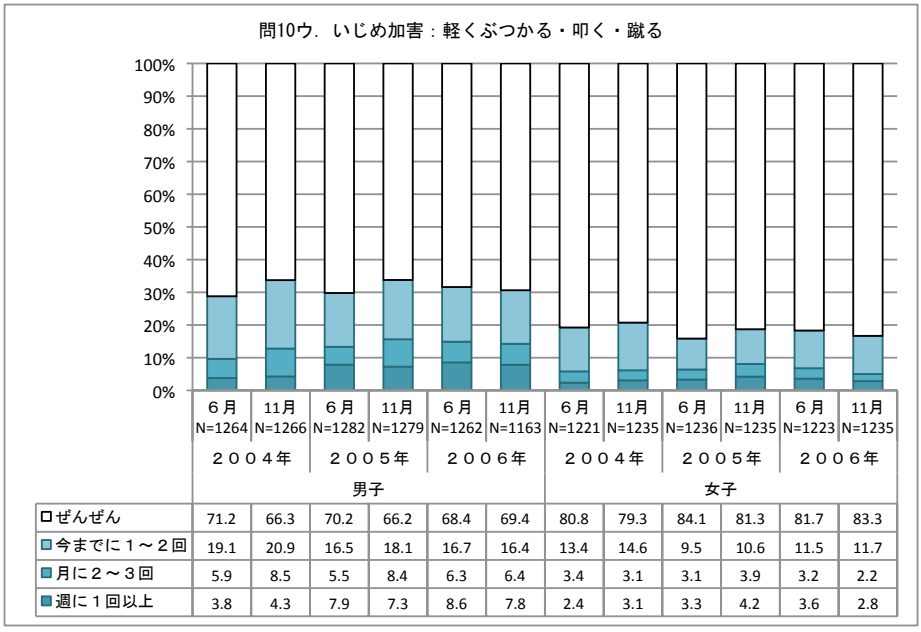


	男子						女子					
	６月 N=1262	11月 N=1265	６月 N=1285	11月 N=1281	６月 N=1267	11月 N=1267	６月 N=1220	11月 N=1234	６月 N=1239	11月 N=1234	６月 N=1224	11月 N=1238
	２００４年		２００５年		２００６年		２００４年		２００５年		２００６年	
ぜんぜん	65.2	61.0	59.7	59.4	61.8	61.7	75.8	71.5	75.4	71.7	78.1	75.4
今までに１～２回	20.9	22.4	21.1	19.5	20.5	20.5	17.2	18.2	15.6	17.5	12.8	15.5
月に２～３回	9.1	11.1	8.2	10.4	8.0	9.1	4.1	6.6	4.6	5.4	4.0	4.9
週に１回以上	4.8	5.5	11.0	10.7	9.7	8.7	2.9	3.8	4.4	5.3	5.1	4.2

○からかう・悪口

男女共に加害経験率は高いですが、男子に多い傾向が窺えます。

この３年間に、大きな変動はありませんが、男子は 2004 年秋から 2006 年春にかけて、女子は 2004 年秋と 2005 年秋が相対的に高かったことが分かります。



	男子						女子					
	６月 N=1264	11月 N=1266	６月 N=1282	11月 N=1279	６月 N=1262	11月 N=1163	６月 N=1221	11月 N=1235	６月 N=1236	11月 N=1235	６月 N=1223	11月 N=1235
	２００４年		２００５年		２００６年		２００４年		２００５年		２００６年	
ぜんぜん	71.2	66.3	70.2	66.2	68.4	69.4	80.8	79.3	84.1	81.3	81.7	83.3
今までに１～２回	19.1	20.9	16.5	18.1	16.7	16.4	13.4	14.6	9.5	10.6	11.5	11.7
月に２～３回	5.9	8.5	5.5	8.4	6.3	6.4	3.4	3.1	3.1	3.9	3.2	2.2
週に１回以上	3.8	4.3	7.9	7.3	8.6	7.8	2.4	3.1	3.3	4.2	3.6	2.8

○軽くぶつかる・叩く・蹴る

日本の場合、３番目に加害経験率が高い行為ですが、他の国では最も経験率の高い行為である場合が多いと言えます。

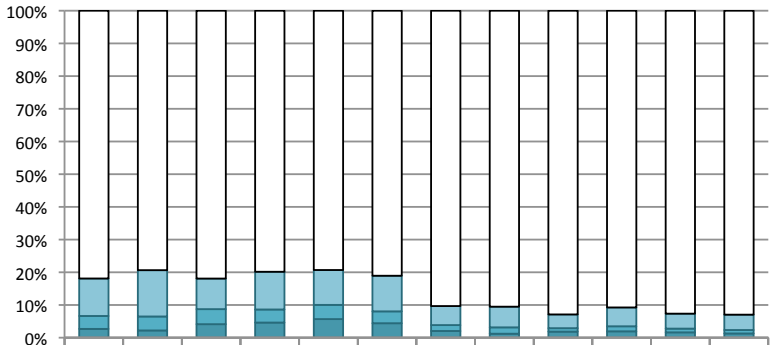
男子に多い傾向が窺えます。

この３年間に、大きな変動はありませんが、全体の加害は 2004 年秋、頻度の高い加害を加味すると、2005 年秋が相対的に高かったことが分かります。

○ひどくぶつかる・叩く・蹴る

男子に多い傾向が窺えます。

この３年間に、大きな変動はありませんが、全体の加害は 2004 年秋と 2005 年秋が相対的に高かったことが分かります。ただし、頻度の高い加害に着目すると、男子は 2006 年春、女子は 2004 年春が高いと言えます。

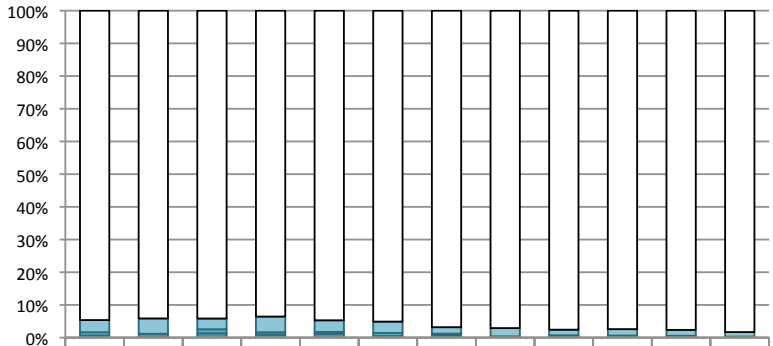


	男子						女子					
	６月 N=1265	11月 N=1264	６月 N=1283	11月 N=1275	６月 N=1266	11月 N=1267	６月 N=1220	11月 N=1234	６月 N=1238	11月 N=1233	６月 N=1225	11月 N=1236
	２００４年		２００５年		２００６年		２００４年		２００５年		２００６年	
ぜんぜん	81.9	79.4	81.9	79.8	79.3	81.1	90.3	90.5	92.9	90.8	92.7	93.0
今までに１～２回	11.5	14.2	9.4	11.5	10.7	10.9	5.8	6.3	4.2	5.8	4.6	4.7
月に２～３回	4.0	4.3	4.6	4.0	4.3	3.6	1.8	1.9	1.1	1.5	1.1	1.1
週に１回以上	2.7	2.2	4.1	4.6	5.7	4.4	2.0	1.2	1.9	1.9	1.6	1.3

○金銭強要・器物損壊

男女共に加害経験率は低いですが、やや男子に多い傾向が窺えます。

この３年間に、大きな変動はありませんが、頻度の高い加害に着目すると、男子では 2005 年春や 2006 年春が相対的に高かったことが分かります。

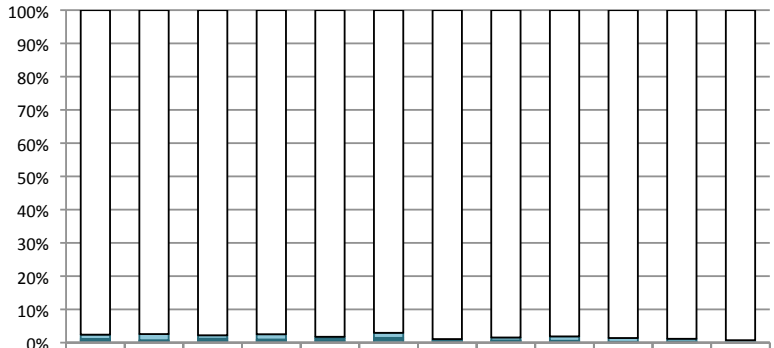


	男子						女子					
	６月 N=1203	11月 N=1262	６月 N=1283	11月 N=1272	６月 N=1264	11月 N=1265	６月 N=1221	11月 N=1234	６月 N=1235	11月 N=1231	６月 N=1223	11月 N=1236
	２００４年		２００５年		２００６年		２００４年		２００５年		２００６年	
ぜんぜん	94.6	94.1	94.2	93.6	94.7	95.1	96.8	97.1	97.6	97.4	97.6	98.3
今までに１～２回	3.7	4.7	3.3	4.8	3.6	3.5	2.0	2.5	1.7	1.9	1.8	1.4
月に２～３回	1.0	0.9	1.2	0.7	0.6	0.9	0.6	0.2	0.3	0.3	0.2	0.1
週に１回以上	0.6	0.3	1.3	0.9	1.2	0.5	0.7	0.2	0.4	0.3	0.3	0.2

○パソコン・携帯

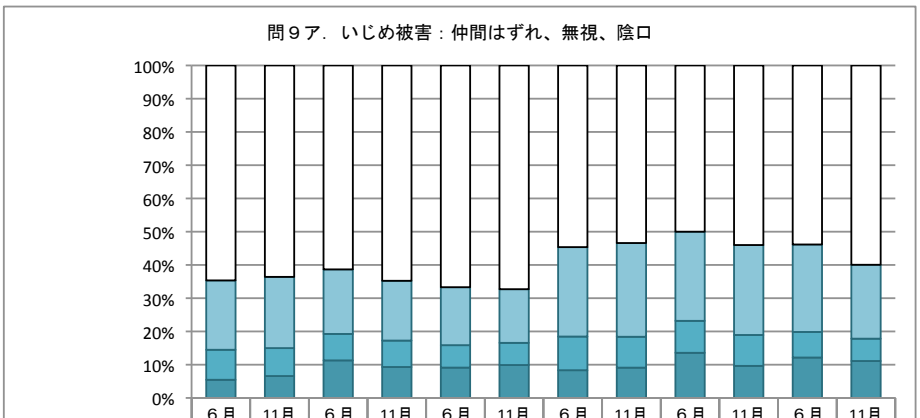
男女共に、最も経験率が低い行為です。

この３年間に、大きな変動はありません。



	男子						女子					
	６月 N=1250	11月 N=1242	６月 N=1268	11月 N=1268	６月 N=1253	11月 N=1255	６月 N=1212	11月 N=1229	６月 N=1228	11月 N=1223	６月 N=1217	11月 N=1232
	２００４年		２００５年		２００６年		２００４年		２００５年		２００６年	
ぜんぜん	97.6	97.4	97.8	97.5	98.2	97.1	98.9	98.5	98.1	98.6	98.8	99.3
今までに１～２回	1.3	1.9	1.0	1.6	0.6	1.5	0.2	0.9	1.3	1.1	0.8	0.4
月に２～３回	0.3	0.2	0.6	0.4	0.6	0.6	0.5	0.2	0.2	0.0	0.2	0.1
週に１回以上	0.8	0.5	0.6	0.6	0.6	0.9	0.3	0.5	0.3	0.2	0.2	0.2

■ 2004 ～ 2006 年度　中学校　いじめ被害経験率

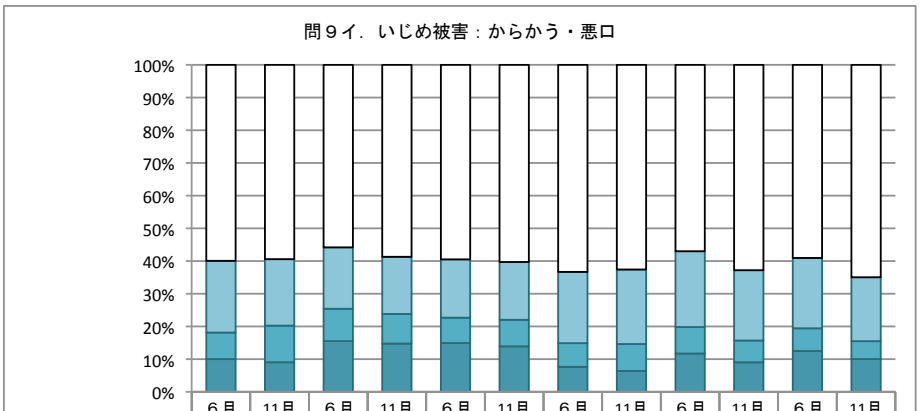


	男子 ６月 N=1208	男子 11月 N=1214	男子 ６月 N=1257	男子 11月 N=1246	男子 ６月 N=1216	男子 11月 N=1171	女子 ６月 N=1175	女子 11月 N=1174	女子 ６月 N=1186	女子 11月 N=1172	女子 ６月 N=1209	女子 11月 N=1206
	２００４年		２００５年		２００６年		２００４年		２００５年		２００６年	
□ぜんぜん	64.7	63.6	61.3	64.8	66.7	67.3	54.6	53.4	50.0	54.0	53.8	60.0
□今までに１～２回	20.9	21.4	19.4	18.0	17.4	16.1	26.9	28.2	26.8	27.0	26.3	22.2
□月に２～３回	9.0	8.4	8.0	7.9	6.7	6.7	10.1	9.3	9.6	9.3	7.7	6.7
□週に１回以上	5.5	6.6	11.3	9.3	9.1	9.9	8.3	9.1	13.6	9.6	12.2	11.1

○仲間はずれ・無視・陰口

男女共に被害経験率は高いですが、女子に多い傾向が窺えます。

この３年間に、大きな変動はありませんが、全体の被害も頻度の高い被害も、2005 年春が相対的に高かったことが分かります。

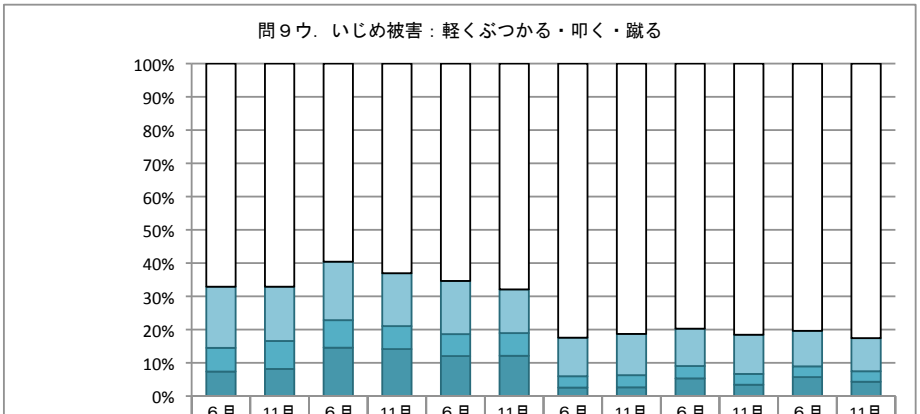


	男子 ６月 N=1208	男子 11月 N=1215	男子 ６月 N=1256	男子 11月 N=1247	男子 ６月 N=1212	男子 11月 N=1171	女子 ６月 N=1175	女子 11月 N=1176	女子 ６月 N=1186	女子 11月 N=1172	女子 ６月 N=1209	女子 11月 N=1207
	２００４年		２００５年		２００６年		２００４年		２００５年		２００６年	
□ぜんぜん	59.9	59.4	55.8	58.7	59.5	60.3	63.3	62.6	57.0	62.8	59.1	65.0
□今までに１～２回	21.9	20.3	18.8	17.5	17.8	17.7	21.8	22.8	23.2	21.5	21.5	19.6
□月に２～３回	8.1	11.2	9.9	9.1	7.8	8.1	7.2	8.2	8.1	6.7	6.9	5.5
□週に１回以上	10.0	9.1	15.5	14.8	14.9	13.9	7.7	6.4	11.7	9.0	12.5	10.0

○からかう・悪口

男女共に被害経験率は高いですが、やや男子に多い傾向が窺えます。

この３年間に、大きな変動はありませんが、全体の被害も頻度の高い被害も、2005 年春が相対的に高かったことが分かります。



	男子 ６月 N=1207	男子 11月 N=1213	男子 ６月 N=1257	男子 11月 N=1245	男子 ６月 N=1213	男子 11月 N=1172	女子 ６月 N=1173	女子 11月 N=1177	女子 ６月 N=1184	女子 11月 N=1171	女子 ６月 N=1208	女子 11月 N=1205
	２００４年		２００５年		２００６年		２００４年		２００５年		２００６年	
□ぜんぜん	67.1	67.1	59.6	63.1	65.4	67.9	82.4	81.3	79.7	81.6	80.4	82.6
□今までに１～２回	18.4	16.3	17.6	15.9	16.0	13.1	11.6	12.4	11.2	11.8	10.7	10.0
□月に２～３回	7.1	8.4	8.3	6.9	6.6	6.8	3.4	3.7	3.7	3.2	3.2	3.2
□週に１回以上	7.4	8.2	14.6	14.1	12.0	12.1	2.6	2.6	5.3	3.4	5.7	4.3

○軽くぶつかる・叩く・蹴る

日本の場合、３番目に被害経験率が高い行為ですが、他の国では最も被害経験率の高い行為である場合が多いと言えます。

男子に多い傾向が窺えます。

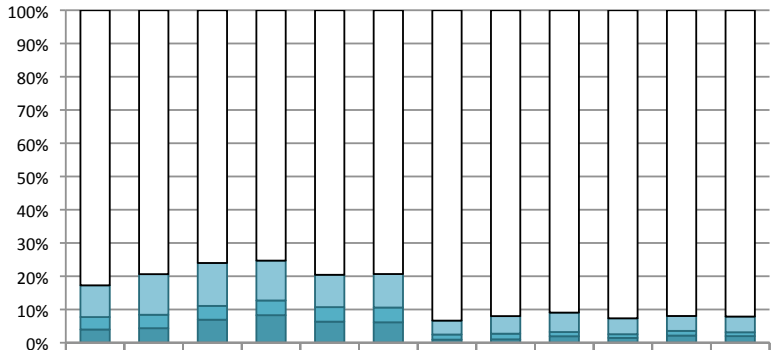
ここ３年の間に、大きな変動はありませんが、全体の被害も頻度の高い被害も、2005 年春が相対的に高かったことが分かります。

○ひどくぶつかる・叩く・蹴る

男子の被害経験率が高い傾向が窺えます。

この３年間に、大きな変動はありませんが、全体の被害も頻度の高い被害も、男子では 2005 年が相対的に高かったことが分かります。

問９エ．いじめ被害：ひどくぶつかる・叩く・蹴る



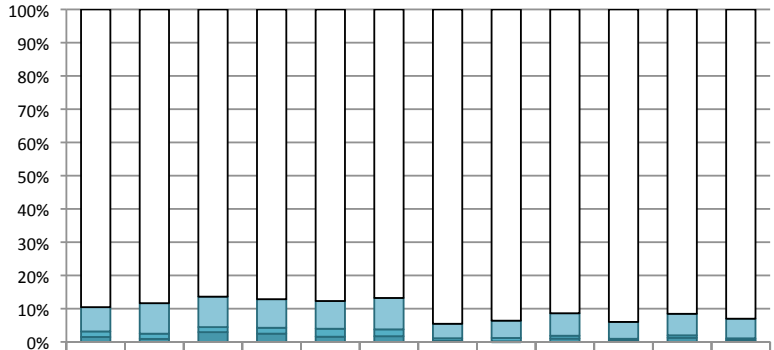
	男子						女子					
	６月 N=1205	11月 N=1212	６月 N=1255	11月 N=1243	６月 N=1214	11月 N=1171	６月 N=1173	11月 N=1174	６月 N=1181	11月 N=1171	６月 N=1206	11月 N=1207
	２００４年		２００５年		２００６年		２００４年		２００５年		２００６年	
ぜんぜん	82.7	79.4	76.0	75.3	79.6	79.3	93.4	92.0	90.9	92.7	92.0	92.1
今までに１～２回	9.5	12.2	12.9	12.0	9.7	10.1	4.2	5.3	5.8	4.8	4.5	4.7
月に２～３回	3.7	4.0	4.1	4.4	4.4	4.4	1.5	1.7	1.3	1.1	1.4	1.2
週に１回以上	4.0	4.4	6.9	8.3	6.3	6.1	0.9	1.0	1.9	1.5	2.2	2.0

○金銭強要・器物損壊

男女共に経験率は低いですが、男子に多い傾向が窺えます。

この３年間に、大きな変動はありませんが、頻度の高い被害に着目すると、男子では 2005 年、女子でも 2005 年春が相対的に高かったことが分かります。

問９オ．いじめ被害：金銭強要・器物損壊



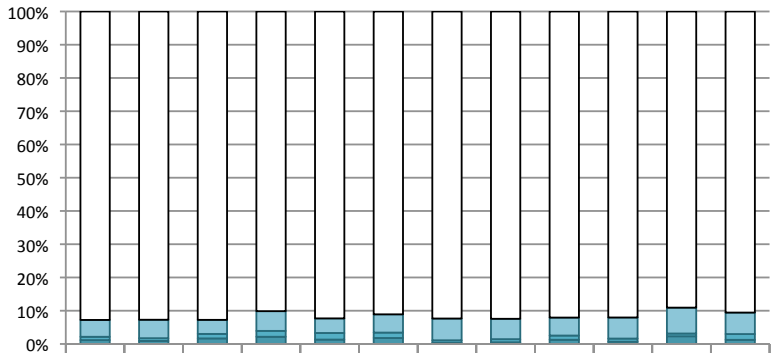
	男子						女子					
	６月 N=1205	11月 N=1210	６月 N=1256	11月 N=1245	６月 N=1211	11月 N=1165	６月 N=1174	11月 N=1174	６月 N=1183	11月 N=1164	６月 N=1207	11月 N=1203
	２００４年		２００５年		２００６年		２００４年		２００５年		２００６年	
ぜんぜん	89.5	88.3	86.4	87.1	87.7	86.8	94.5	93.6	91.4	94.0	91.5	93.0
今までに１～２回	7.3	9.2	9.2	8.6	8.3	9.4	4.3	5.2	6.8	5.1	6.5	5.9
月に２～３回	1.7	1.6	1.5	1.8	2.4	2.1	0.8	1.0	0.8	0.4	0.7	0.5
週に１回以上	1.5	0.9	2.9	2.5	1.6	1.7	0.3	0.2	1.0	0.5	1.2	0.6

○パソコン・携帯

男女共に、最も経験率が低い行為です。

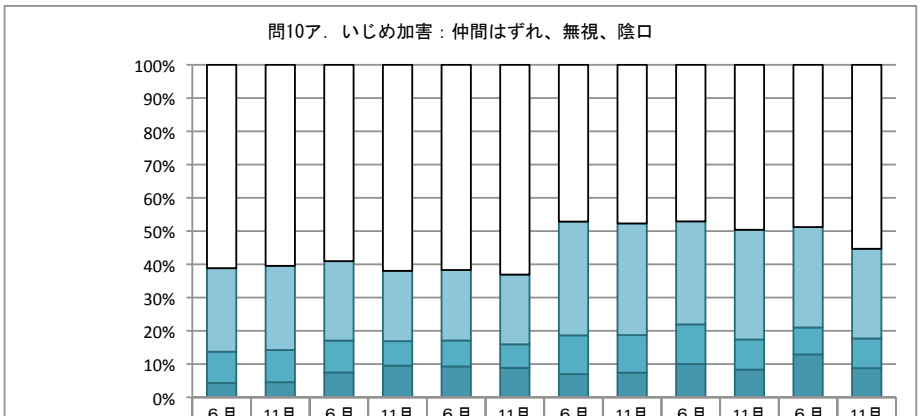
この３年間に、大きな変動はありませんが、やや増加傾向にあるようです。

問９カ．いじめ被害：パソコン・携帯



	男子						女子					
	６月 N=1204	11月 N=1208	６月 N=1255	11月 N=1246	６月 N=1209	11月 N=1167	６月 N=1176	11月 N=1176	６月 N=1184	11月 N=1168	６月 N=1208	11月 N=1207
	２００４年		２００５年		２００６年		２００４年		２００５年		２００６年	
ぜんぜん	92.8	92.7	92.7	90.1	92.3	91.1	92.3	92.4	92.1	92.0	89.1	90.6
今までに１～２回	5.1	5.5	4.2	5.9	4.4	5.5	6.5	6.1	5.4	6.3	7.8	6.5
月に２～３回	1.0	0.8	1.4	1.8	2.0	1.6	0.8	0.9	1.3	0.9	0.8	1.7
週に１回以上	1.2	0.9	1.7	2.2	1.3	1.8	0.3	0.5	1.3	0.7	2.3	1.2

■ 2004 ～ 2006 年度　中学校　いじめ加害経験率

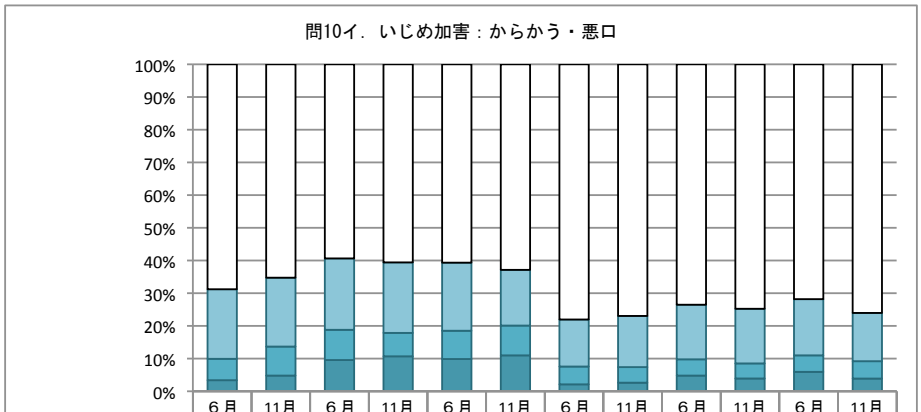


	男子 ６月 N=1210	男子 11月 N=1209	男子 ６月 N=1260	男子 11月 N=1249	男子 ６月 N=1217	男子 11月 N=1173	女子 ６月 N=1175	女子 11月 N=1176	女子 ６月 N=1185	女子 11月 N=1173	女子 ６月 N=1209	女子 11月 N=1209
	２００４年		２００５年		２００６年		２００４年		２００５年		２００６年	
□ぜんぜん	61.2	60.5	59.0	62.0	61.7	63.1	47.1	47.7	47.1	49.6	48.8	55.3
□今までに１～２回	25.1	25.3	23.9	21.1	21.2	21.0	34.2	33.6	31.0	33.0	30.2	27.0
□月に２～３回	9.4	9.7	9.6	7.4	7.8	7.1	11.7	11.3	11.9	9.0	8.1	8.9
□週に１回以上	4.3	4.5	7.5	9.5	9.3	8.9	7.0	7.4	10.0	8.4	12.9	8.8

○仲間はずれ・無視・陰口

男女共に加害経験率は高いですが、女子に多い傾向が窺えます。

この３年間に、大きな変動はありません。

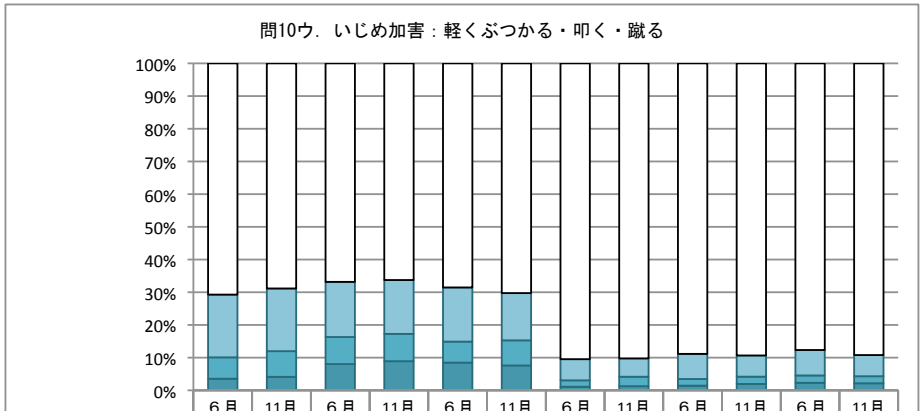


	男子 ６月 N=1208	男子 11月 N=1206	男子 ６月 N=1255	男子 11月 N=1243	男子 ６月 N=1215	男子 11月 N=1174	女子 ６月 N=1175	女子 11月 N=1176	女子 ６月 N=1186	女子 11月 N=1173	女子 ６月 N=1210	女子 11月 N=1206
	２００４年		２００５年		２００６年		２００４年		２００５年		２００６年	
□ぜんぜん	68.8	65.3	59.4	60.6	60.7	62.9	78.0	77.0	73.5	74.8	71.8	76.0
□今までに１～２回	21.3	21.1	21.8	21.6	20.8	17.0	14.4	15.6	16.7	16.7	17.2	14.8
□月に２～３回	6.5	8.9	9.2	7.2	8.6	9.1	5.4	4.8	5.0	4.6	5.0	5.3
□週に１回以上	3.4	4.8	9.6	10.7	9.9	11.0	2.1	2.6	4.8	3.9	6.0	3.9

○からかう・悪口

男女共に加害経験率は高いですが、男子に多い傾向が窺えます。

この３年間に、大きな変動はありませんが、全体の加害も頻度の高い加害も、2005 年春から 2006 年春が相対的に高かったことが分かります。



	男子 ６月 N=1209	男子 11月 N=1210	男子 ６月 N=1257	男子 11月 N=1245	男子 ６月 N=1214	男子 11月 N=1170	女子 ６月 N=1175	女子 11月 N=1177	女子 ６月 N=1184	女子 11月 N=1172	女子 ６月 N=1208	女子 11月 N=1205
	２００４年		２００５年		２００６年		２００４年		２００５年		２００６年	
□ぜんぜん	70.7	68.8	66.8	66.3	68.5	70.3	90.5	90.2	88.9	89.3	87.7	89.2
□今までに１～２回	19.2	19.2	16.9	16.5	16.6	14.4	6.5	5.6	7.7	6.5	7.8	6.5
□月に２～３回	6.5	7.9	8.3	8.4	6.4	7.7	2.0	2.9	2.0	2.2	2.2	2.2
□週に１回以上	3.6	4.1	8.0	8.9	8.5	7.6	1.1	1.3	1.4	2.0	2.3	2.2

○軽くぶつかる・叩く・蹴る

日本の場合、３番目に加害経験率が高い行為ですが、他の国では最も経験率の高い行為である場合が多いと言えます。

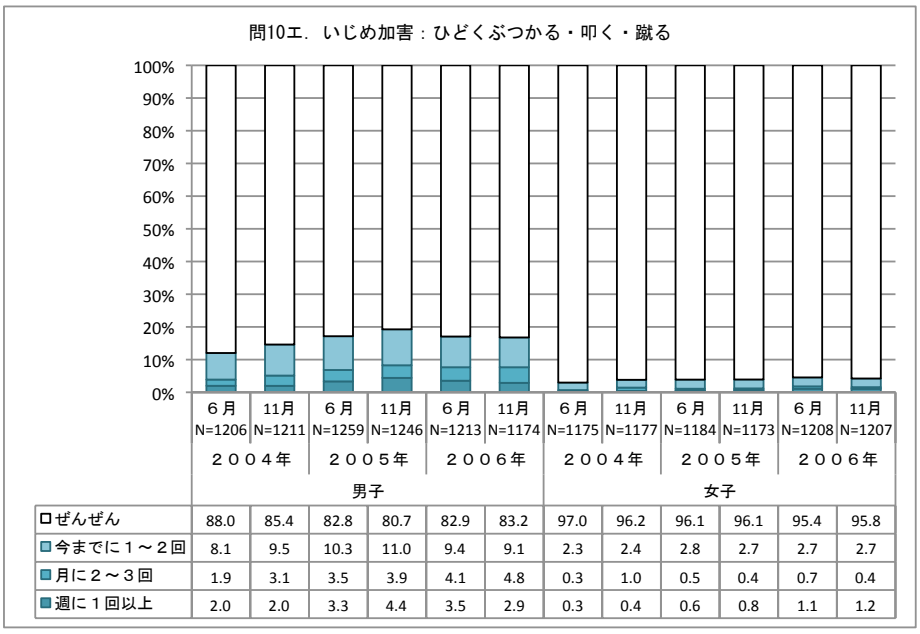
男子に多い傾向が窺えます。

ここ３年の間に、大きな変動はありませんが、頻度の高い加害に着目すると、2005 年春から 2006 年春にかけて、相対的に高かったことが分かります。

○ひどくぶつかる・叩く・蹴る

男子の加害経験率が高い傾向が窺えます。

この３年間に、大きな変動はありませんが、全体の加害も頻度の高い加害も、2005 年秋が、相対的に高かったことが分かります。

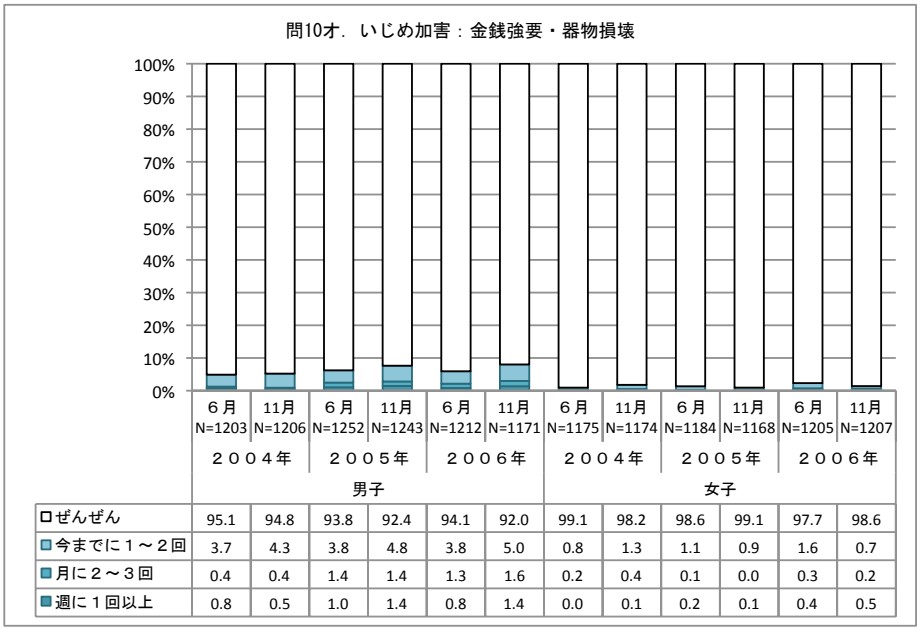


	男子						女子					
	６月 N=1206	11月 N=1211	６月 N=1259	11月 N=1246	６月 N=1213	11月 N=1174	６月 N=1175	11月 N=1177	６月 N=1184	11月 N=1173	６月 N=1208	11月 N=1207
	２００４年		２００５年		２００６年		２００４年		２００５年		２００６年	
ぜんぜん	88.0	85.4	82.8	80.7	82.9	83.2	97.0	96.2	96.1	96.1	95.4	95.8
今までに１～２回	8.1	9.5	10.3	11.0	9.4	9.1	2.3	2.4	2.8	2.7	2.7	2.7
月に２～３回	1.9	3.1	3.5	3.9	4.1	4.8	0.3	1.0	0.5	0.4	0.7	0.4
週に１回以上	2.0	2.0	3.3	4.4	3.5	2.9	0.3	0.4	0.6	0.8	1.1	1.2

○金銭強要・器物損壊

男女共に加害経験率は低いですが、男子に多い傾向が窺えます。

この３年間に、大きな変動はありませんが、頻度の高い加害に着目すると、男子では 2005 年秋と 2006 年秋が相対的に高かったことが分かります。

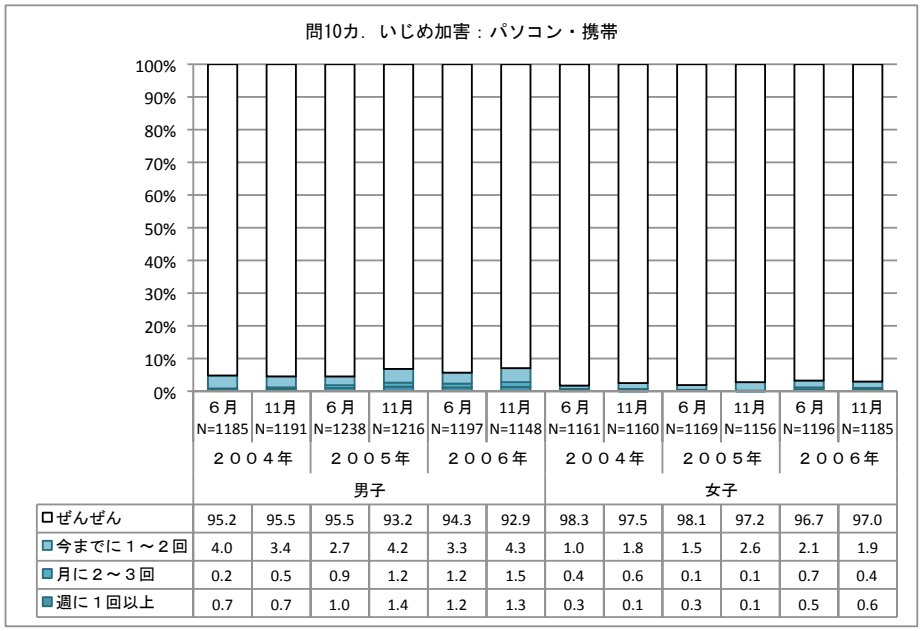


	男子						女子					
	６月 N=1203	11月 N=1206	６月 N=1252	11月 N=1243	６月 N=1212	11月 N=1171	６月 N=1175	11月 N=1174	６月 N=1184	11月 N=1168	６月 N=1205	11月 N=1207
	２００４年		２００５年		２００６年		２００４年		２００５年		２００６年	
ぜんぜん	95.1	94.8	93.8	92.4	94.1	92.0	99.1	98.2	98.6	99.1	97.7	98.6
今までに１～２回	3.7	4.3	3.8	4.8	3.8	5.0	0.8	1.3	1.1	0.9	1.6	0.7
月に２～３回	0.4	0.4	1.4	1.4	1.3	1.6	0.2	0.4	0.1	0.0	0.3	0.2
週に１回以上	0.8	0.5	1.0	1.4	0.8	1.4	0.0	0.1	0.2	0.1	0.4	0.5

○パソコン・携帯

男女共に、加害経験率が低い行為です。

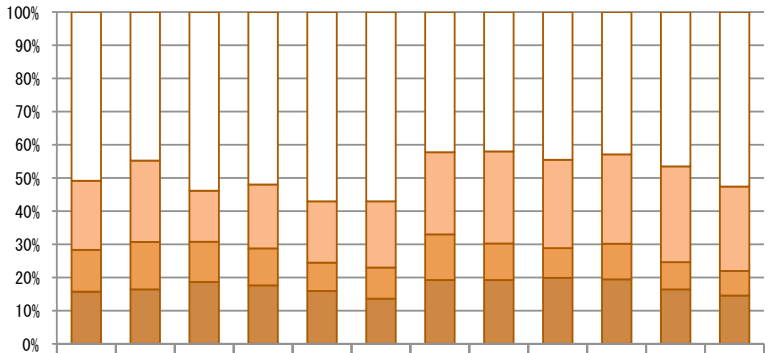
この３年間に、大きな変動はありませんが、2005 年秋以降は、それまでよりも高いことが分かります。



	男子						女子					
	６月 N=1185	11月 N=1191	６月 N=1238	11月 N=1216	６月 N=1197	11月 N=1148	６月 N=1161	11月 N=1160	６月 N=1169	11月 N=1156	６月 N=1196	11月 N=1185
	２００４年		２００５年		２００６年		２００４年		２００５年		２００６年	
ぜんぜん	95.2	95.5	95.5	93.2	94.3	92.9	98.3	97.5	98.1	97.2	96.7	97.0
今までに１～２回	4.0	3.4	2.7	4.2	3.3	4.3	1.0	1.8	1.5	2.6	2.1	1.9
月に２～３回	0.2	0.5	0.9	1.2	1.2	1.5	0.4	0.6	0.1	0.1	0.7	0.4
週に１回以上	0.7	0.7	1.0	1.4	1.2	1.3	0.3	0.1	0.3	0.1	0.5	0.6

■ 2004 年度　小学校４年生　いじめ被害経験率推移

問９ア．いじめ被害：仲間はずれ、無視、陰口



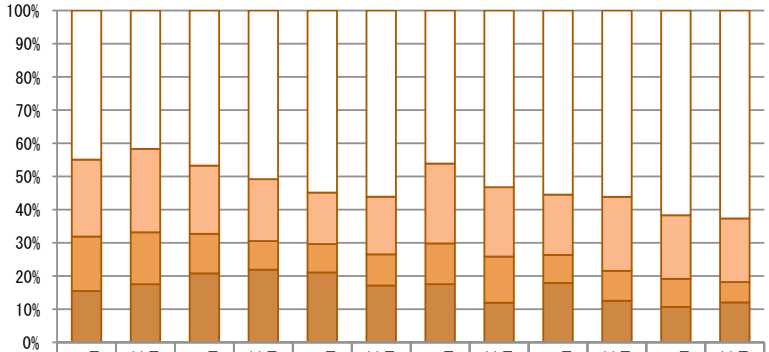
	男子						女子					
	６月 N=413	11月 N=420	６月 N=429	11月 N=431	６月 N=433	11月 N=426	６月 N=400	11月 N=400	６月 N=402	11月 N=401	６月 N=402	11月 N=405
	4年生(2004)		5年生（2005）		6年生(2006)		4年生(2004)		5年生（2005）		6年生(2006)	
ぜんぜん	50.8	44.8	53.8	52.0	57.0	57.0	42.3	42.0	44.5	42.9	46.5	52.6
今までに１～２回	20.8	24.5	15.4	19.3	18.5	20.0	24.8	27.8	26.6	26.9	28.9	25.4
月に２～３回	12.6	14.3	12.1	11.1	8.5	9.4	13.8	11.0	9.0	10.7	8.2	7.4
週に１回以上	15.7	16.4	18.6	17.6	15.9	13.6	19.3	19.3	19.9	19.5	16.4	14.6

○仲間はずれ・無視・陰口

男女共に被害経験率は高いですが、やや女子に多い傾向が窺えます。

４年生から６年生にかけて、少しずつ減少する傾向が窺えます。

問９イ．いじめ被害：からかう・悪口



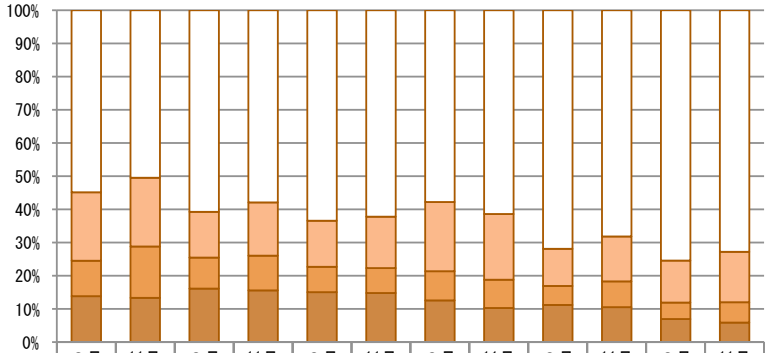
	男子						女子					
	６月 N=414	11月 N=422	６月 N=428	11月 N=429	６月 N=432	11月 N=426	６月 N=399	11月 N=402	６月 N=402	11月 N=399	６月 N=402	11月 N=407
	4年生(2004)		5年生（2005）		6年生(2006)		4年生(2004)		5年生（2005）		6年生(2006)	
ぜんぜん	44.9	41.7	46.7	50.8	54.9	56.1	46.1	53.2	55.5	56.1	61.7	62.7
今までに１～２回	23.2	25.1	20.6	18.6	15.5	17.4	24.1	20.9	18.2	22.3	19.2	19.2
月に２～３回	16.4	15.6	11.9	8.6	8.6	9.4	12.3	13.9	8.5	9.0	8.5	6.1
週に１回以上	15.5	17.5	20.8	21.9	21.1	17.1	17.5	11.9	17.9	12.5	10.7	12.0

○からかう・悪口

男女共に被害経験率は高いですが、やや男子に多い傾向が窺えます。

４年生から６年生にかけて、少しずつ減少する傾向が窺えます。

問９ウ．いじめ被害：軽くぶつかる・叩く・蹴る



	男子						女子					
	６月 N=412	11月 N=420	６月 N=428	11月 N=430	６月 N=432	11月 N=426	６月 N=398	11月 N=399	６月 N=402	11月 N=399	６月 N=403	11月 N=408
	4年生(2004)		5年生（2005）		6年生(2006)		4年生(2004)		5年生（2005）		6年生(2006)	
ぜんぜん	54.9	50.5	60.7	57.9	63.4	62.2	57.8	61.4	71.9	68.2	75.4	72.8
今までに１～２回	20.6	20.7	13.8	16.0	13.9	15.5	20.9	19.8	11.2	13.5	12.7	15.2
月に２～３回	10.7	15.5	9.3	10.5	7.6	7.5	8.8	8.5	5.7	7.8	5.0	6.1
週に１回以上	13.8	13.3	16.1	15.6	15.0	14.8	12.6	10.3	11.2	10.5	6.9	5.9

○軽くぶつかる・叩く・蹴る

日本の場合、３番目に被害経験率が高い行為ですが、他の国では最も経験率が高いことが多い行為と言えます。

やや男子に多い傾向が窺えます。

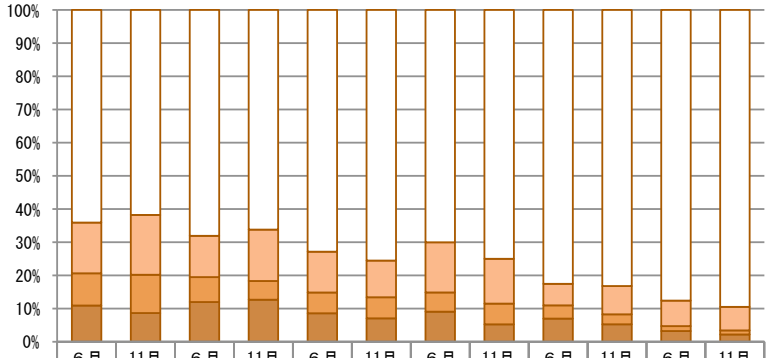
４年生から６年生にかけて、少しずつ減少する傾向が窺えます。

○ひどくぶつかる・叩く・蹴る

男子の被害経験率が高い傾向が窺えます。

４年生から６年生にかけて、はっきりと減少する傾向が窺えます。

問９エ．いじめ被害：ひどくぶつかる・叩く・蹴る



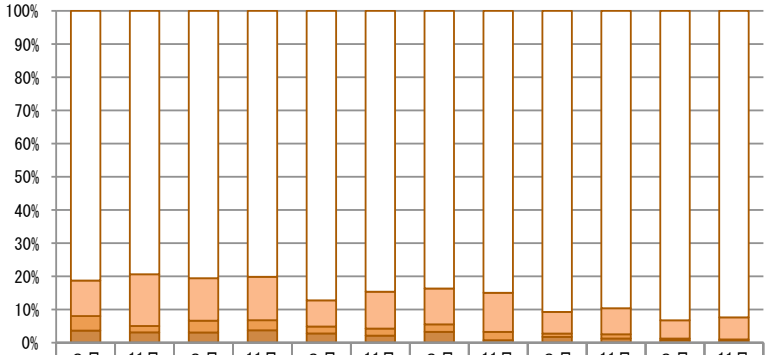
	男子						女子					
	６月 N=412	11月 N=416	６月 N=426	11月 N=426	６月 N=431	11月 N=425	６月 N=397	11月 N=400	６月 N=401	11月 N=399	６月 N=403	11月 N=409
	4年生(2004)		5年生（2005）		6年生(2006)		4年生(2004)		5年生（2005）		6年生(2006)	
ぜんぜん	64.1	61.8	68.1	66.2	72.9	75.5	70.0	75.0	82.5	83.2	87.6	89.5
今までに１～２回	15.3	18.0	12.4	15.5	12.3	11.1	15.1	13.5	6.5	8.5	7.7	7.1
月に２～３回	9.7	11.5	7.5	5.6	6.3	6.4	5.8	6.3	4.0	3.0	1.5	1.2
週に１回以上	10.9	8.7	12.0	12.7	8.6	7.1	9.1	5.3	7.0	5.3	3.2	2.2

○金銭強要・器物損壊

男女共に被害経験率は低いですが、男子に多い傾向が窺えます。

４年生から６年生にかけて、少しずつ減少する傾向が窺えます。

問９オ．いじめ被害：金銭強要・器物損壊



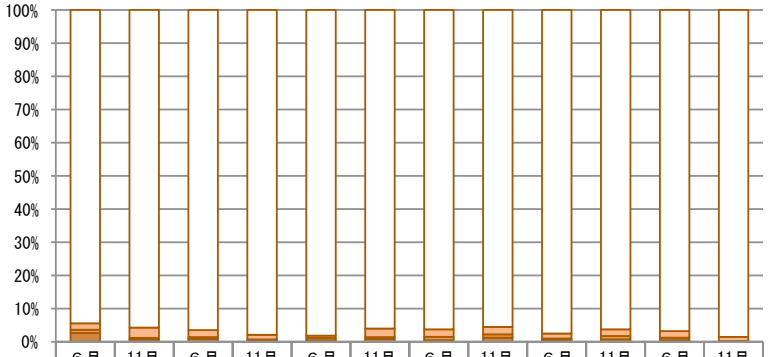
	男子						女子					
	６月 N=411	11月 N=417	６月 N=422	11月 N=428	６月 N=431	11月 N=423	６月 N=398	11月 N=399	６月 N=399	11月 N=395	６月 N=400	11月 N=406
	4年生(2004)		5年生（2005）		6年生(2006)		4年生(2004)		5年生（2005）		6年生(2006)	
ぜんぜん	81.3	79.4	80.6	80.1	87.2	84.6	83.7	85.0	90.7	89.6	93.3	92.4
今までに１～２回	10.7	15.6	12.8	13.1	7.9	11.1	10.8	11.8	6.5	7.8	5.5	6.7
月に２～３回	4.4	1.9	3.6	3.0	2.1	2.1	2.3	2.5	1.0	1.3	0.5	0.5
週に１回以上	3.6	3.1	3.1	3.7	2.8	2.1	3.3	0.8	1.8	1.3	0.8	0.5

○パソコン・携帯

男女共に、最も被害経験率が低い行為です。

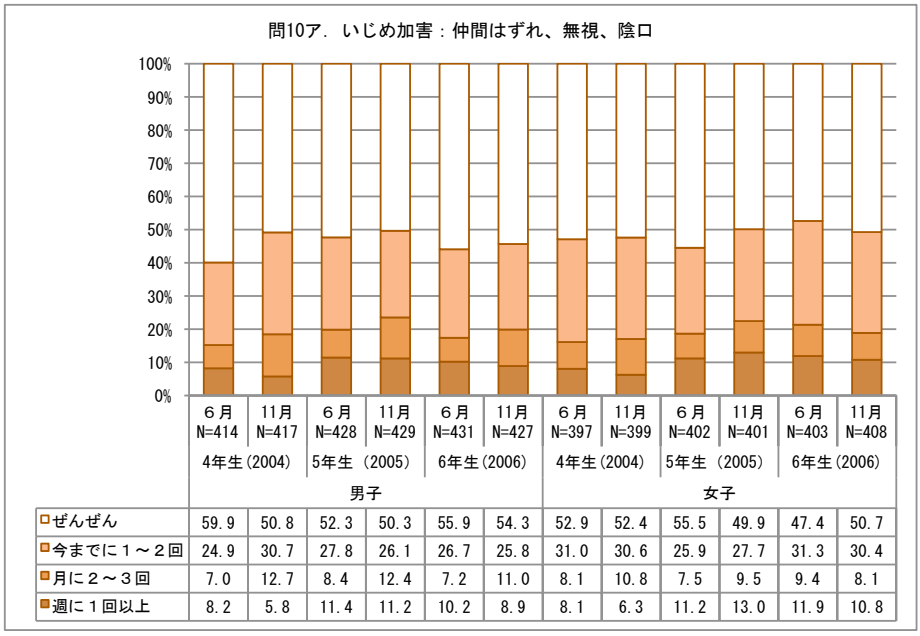
学年進行に伴うはっきりした傾向は窺えません。

問９カ．いじめ被害：パソコン・携帯



	男子						女子					
	６月 N=413	11月 N=420	６月 N=429	11月 N=431	６月 N=433	11月 N=426	６月 N=400	11月 N=400	６月 N=402	11月 N=401	６月 N=402	11月 N=405
	4年生(2004)		5年生（2005）		6年生(2006)		4年生(2004)		5年生（2005）		6年生(2006)	
ぜんぜん	94.4	95.7	96.5	97.9	98.1	96.0	96.2	95.5	97.5	96.2	96.8	98.5
今までに１～２回	1.9	3.1	2.1	1.4	0.7	2.6	2.3	2.2	1.5	2.0	2.0	1.2
月に２～３回	1.0	0.5	0.5	0.2	0.7	0.5	1.0	1.0	0.2	1.0	0.7	0.0
週に１回以上	2.7	0.7	0.9	0.5	0.5	0.9	0.5	1.2	0.7	0.8	0.5	0.2

■ 2004 年度　小学校４年生　いじめ加害経験率推移

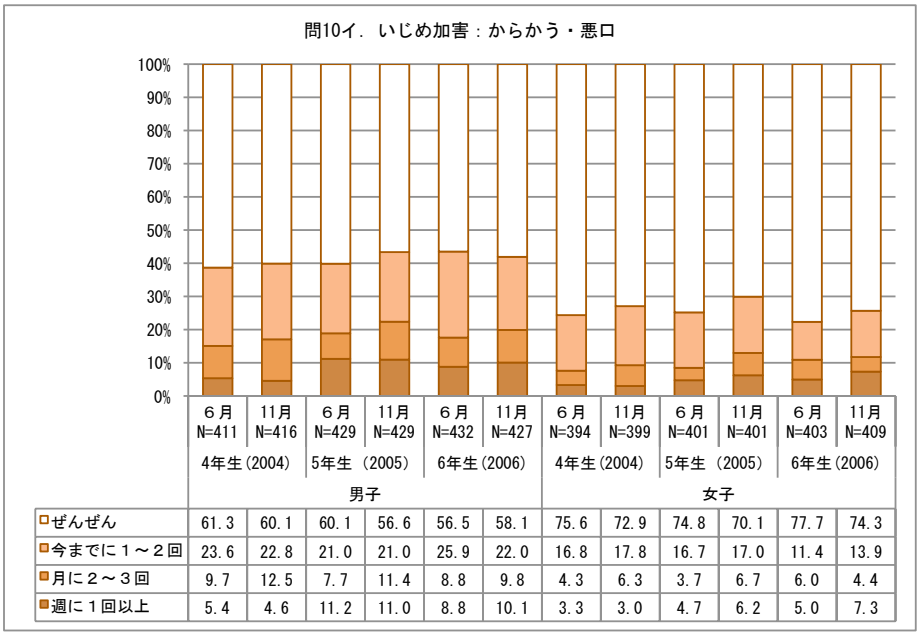


	男子						女子					
	６月 N=414	11月 N=417	６月 N=428	11月 N=429	６月 N=431	11月 N=427	６月 N=397	11月 N=399	６月 N=402	11月 N=401	６月 N=403	11月 N=408
	4年生(2004)		5年生（2005）		6年生(2006)		4年生(2004)		5年生（2005）		6年生(2006)	
ぜんぜん	59.9	50.8	52.3	50.3	55.9	54.3	52.9	52.4	55.5	49.9	47.4	50.7
今までに１～２回	24.9	30.7	27.8	26.1	26.7	25.8	31.0	30.6	25.9	27.7	31.3	30.4
月に２～３回	7.0	12.7	8.4	12.4	7.2	11.0	8.1	10.8	7.5	9.5	9.4	8.1
週に１回以上	8.2	5.8	11.4	11.2	10.2	8.9	8.1	6.3	11.2	13.0	11.9	10.8

○仲間はずれ・無視・陰口

男女共に加害経験率は高いですが、やや女子に多い傾向が窺えます。

学年進行に伴う傾向は、はっきりとは窺えません。

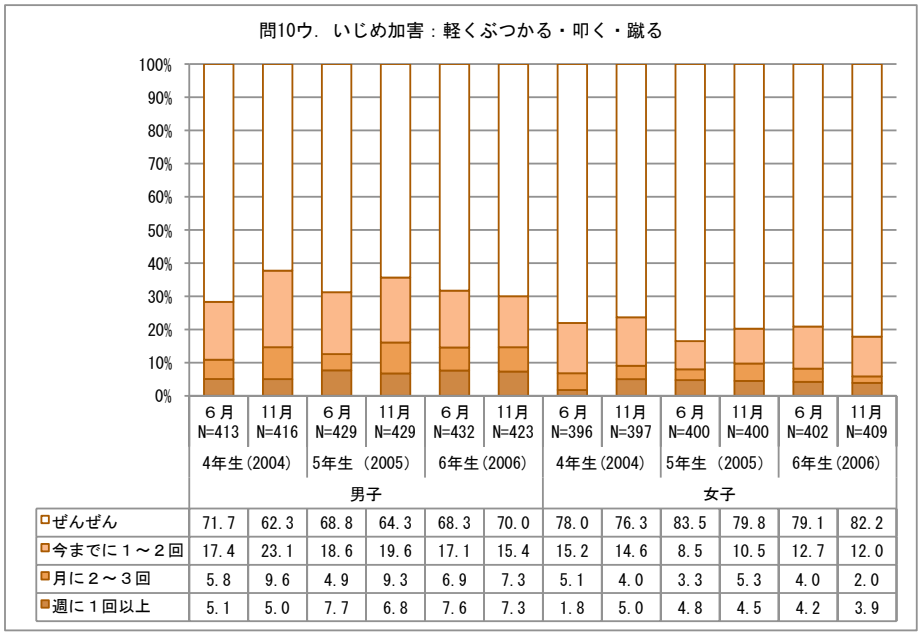


	男子						女子					
	６月 N=411	11月 N=416	６月 N=429	11月 N=429	６月 N=432	11月 N=427	６月 N=394	11月 N=399	６月 N=401	11月 N=401	６月 N=403	11月 N=409
	4年生(2004)		5年生（2005）		6年生(2006)		4年生(2004)		5年生（2005）		6年生(2006)	
ぜんぜん	61.3	60.1	60.1	56.6	56.5	58.1	75.6	72.9	74.8	70.1	77.7	74.3
今までに１～２回	23.6	22.8	21.0	21.0	25.9	22.0	16.8	17.8	16.7	17.0	11.4	13.9
月に２～３回	9.7	12.5	7.7	11.4	8.8	9.8	4.3	6.3	3.7	6.7	6.0	4.4
週に１回以上	5.4	4.6	11.2	11.0	8.8	10.1	3.3	3.0	4.7	6.2	5.0	7.3

○からかう・悪口

男女共に加害経験率は高いですが、男子に多い傾向が窺えます。

学年進行に伴う傾向は、はっきりとは窺えません。



	男子						女子					
	６月 N=413	11月 N=416	６月 N=429	11月 N=429	６月 N=432	11月 N=423	６月 N=396	11月 N=397	６月 N=400	11月 N=400	６月 N=402	11月 N=409
	4年生(2004)		5年生（2005）		6年生(2006)		4年生(2004)		5年生（2005）		6年生(2006)	
ぜんぜん	71.7	62.3	68.8	64.3	68.3	70.0	78.0	76.3	83.5	79.8	79.1	82.2
今までに１～２回	17.4	23.1	18.6	19.6	17.1	15.4	15.2	14.6	8.5	10.5	12.7	12.0
月に２～３回	5.8	9.6	4.9	9.3	6.9	7.3	5.1	4.0	3.3	5.3	4.0	2.0
週に１回以上	5.1	5.0	7.7	6.8	7.6	7.3	1.8	5.0	4.8	4.5	4.2	3.9

○軽くぶつかる・叩く・蹴る

日本の場合、３番目に加害経験率が高い行為ですが、他の国では最も経験率が高いことが多い行為と言えます。

男子に多い傾向が窺えます。

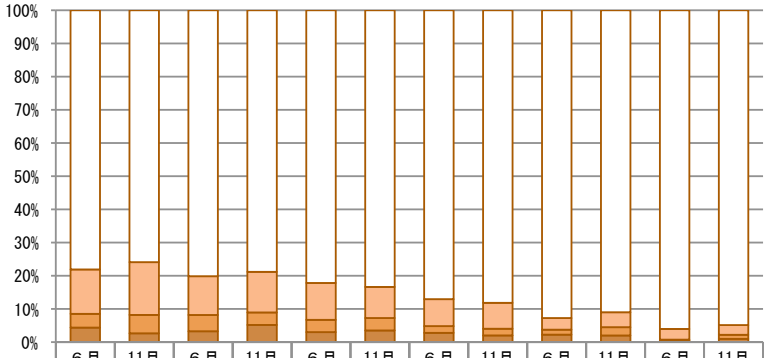
学年進行に伴う傾向は、はっきりとは窺えません。

○ひどくぶつかる・叩く・蹴る

男子の加害経験率が高い傾向が窺えます。

４年生から６年生にかけて、減少する傾向が窺えます。

問10エ．いじめ加害：ひどくぶつかる・叩く・蹴る



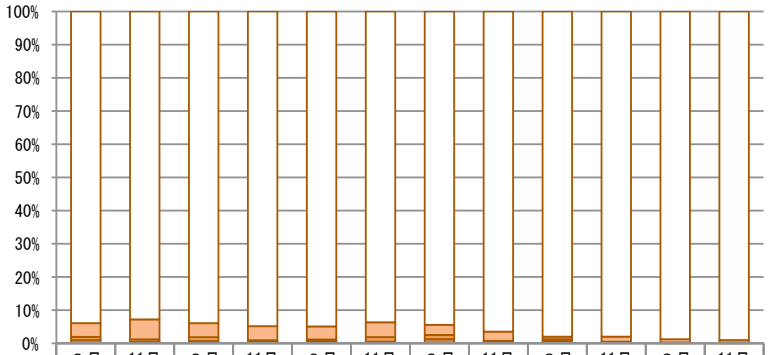
	男子						女子					
	６月 N=411	11月 N=415	６月 N=428	11月 N=425	６月 N=432	11月 N=427	６月 N=394	11月 N=397	６月 N=400	11月 N=400	６月 N=403	11月 N=409
	4年生(2004)		5年生（2005）		6年生(2006)		4年生(2004)		5年生（2005）		6年生(2006)	
ぜんぜん	78.1	75.9	80.1	78.8	82.2	83.4	87.1	88.2	92.8	91.0	96.0	94.9
今までに１～２回	13.4	15.9	11.7	12.2	11.1	9.4	8.1	7.8	3.5	4.5	3.2	2.9
月に２～３回	4.1	5.5	4.9	3.8	3.7	3.7	2.0	2.0	1.5	2.5	0.2	1.2
週に１回以上	4.4	2.7	3.3	5.2	3.0	3.5	2.8	2.0	2.3	2.0	0.5	1.0

○金銭強要・器物損壊

男女共に加害経験率は低いですが、やや男子に多い傾向が窺えます。

女子では、４年生から６年生にかけて、減少する傾向が窺えます。

問10オ．いじめ加害：金銭強要・器物損壊



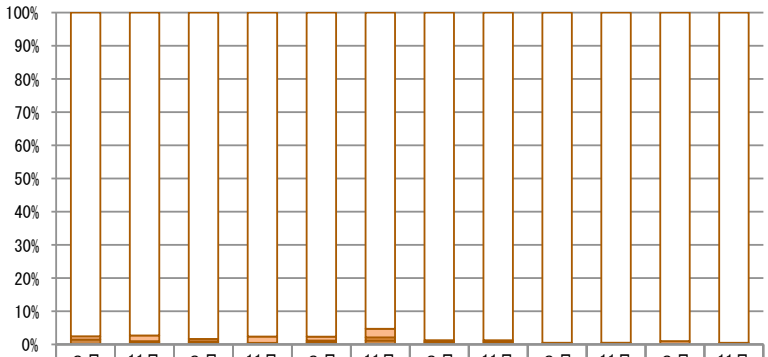
	男子						女子					
	６月 N=411	11月 N=416	６月 N=428	11月 N=426	６月 N=432	11月 N=426	６月 N=395	11月 N=397	６月 N=399	11月 N=397	６月 N=403	11月 N=409
	4年生(2004)		5年生（2005）		6年生(2006)		4年生(2004)		5年生（2005）		6年生(2006)	
ぜんぜん	93.9	92.8	93.9	94.8	94.9	93.7	94.4	96.5	98.0	98.0	98.8	99.0
今までに１～２回	4.1	6.0	4.2	4.2	3.9	4.5	3.0	2.8	0.8	1.5	1.0	0.7
月に２～３回	1.0	0.7	1.2	0.2	0.2	1.4	1.3	0.3	0.5	0.0	0.2	0.0
週に１回以上	1.0	0.5	0.7	0.7	0.9	0.5	1.3	0.5	0.8	0.5	0.0	0.2

○パソコン・携帯

男女共に、最も加害経験率が低い行為です。

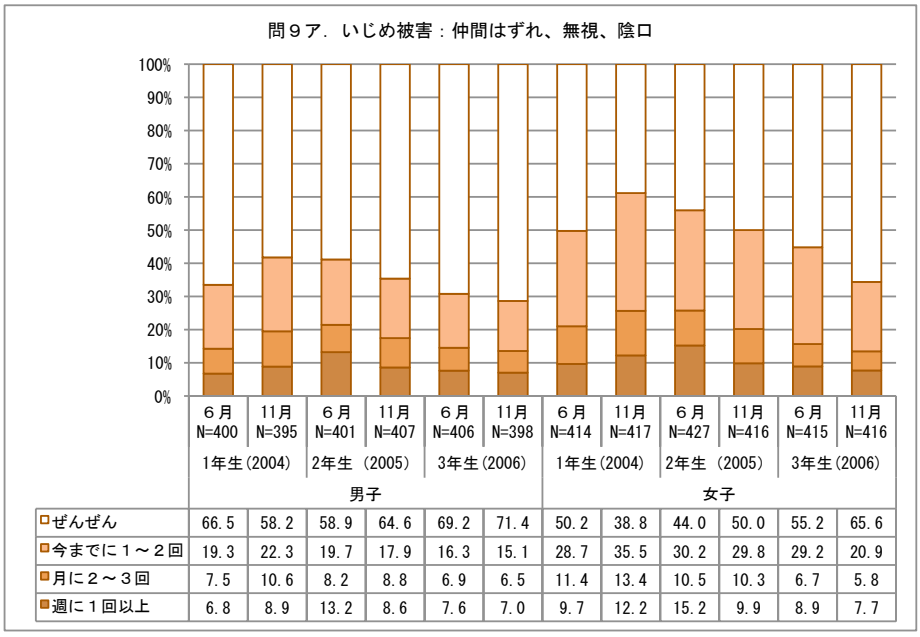
男子では、６年生でやや高くなる傾向が窺えます。

問10カ．いじめ加害：パソコン・携帯



	男子						女子					
	６月 N=409	11月 N=408	６月 N=424	11月 N=422	６月 N=428	11月 N=425	６月 N=395	11月 N=398	６月 N=399	11月 N=391	６月 N=402	11月 N=407
	4年生(2004)		5年生（2005）		6年生(2006)		4年生(2004)		5年生（2005）		6年生(2006)	
ぜんぜん	97.6	97.3	98.3	97.6	97.7	95.3	98.7	98.7	99.5	99.5	99.0	99.5
今までに１～２回	1.0	1.7	0.7	1.9	1.2	2.6	0.3	0.5	0.3	0.3	0.7	0.2
月に２～３回	0.0	0.5	0.5	0.2	0.5	0.9	0.5	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2
週に１回以上	1.5	0.5	0.5	0.2	0.7	1.2	0.5	0.8	0.3	0.3	0.0	0.0

■ 2004 年度　中学校１年生　いじめ被害経験率推移

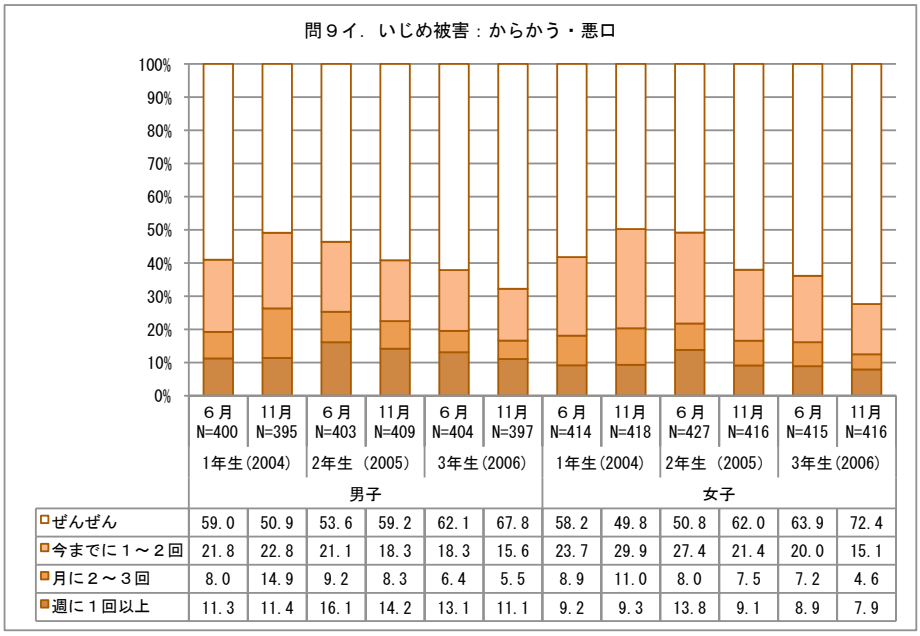


	男子						女子					
	６月 N=400	11月 N=395	６月 N=401	11月 N=407	６月 N=406	11月 N=398	６月 N=414	11月 N=417	６月 N=427	11月 N=416	６月 N=415	11月 N=416
	1年生(2004)		2年生（2005）		3年生(2006)		1年生(2004)		2年生（2005）		3年生(2006)	
ぜんぜん	66.5	58.2	58.9	64.6	69.2	71.4	50.2	38.8	44.0	50.0	55.2	65.6
今までに１～２回	19.3	22.3	19.7	17.9	16.3	15.1	28.7	35.5	30.2	29.8	29.2	20.9
月に２～３回	7.5	10.6	8.2	8.8	6.9	6.5	11.4	13.4	10.5	10.3	6.7	5.8
週に１回以上	6.8	8.9	13.2	8.6	7.6	7.0	9.7	12.2	15.2	9.9	8.9	7.7

○仲間はずれ・無視・陰口

男女共に被害経験率は高いですが、女子に多い傾向が窺えます。

１年生秋から２年生春にピークがあることが窺えます。

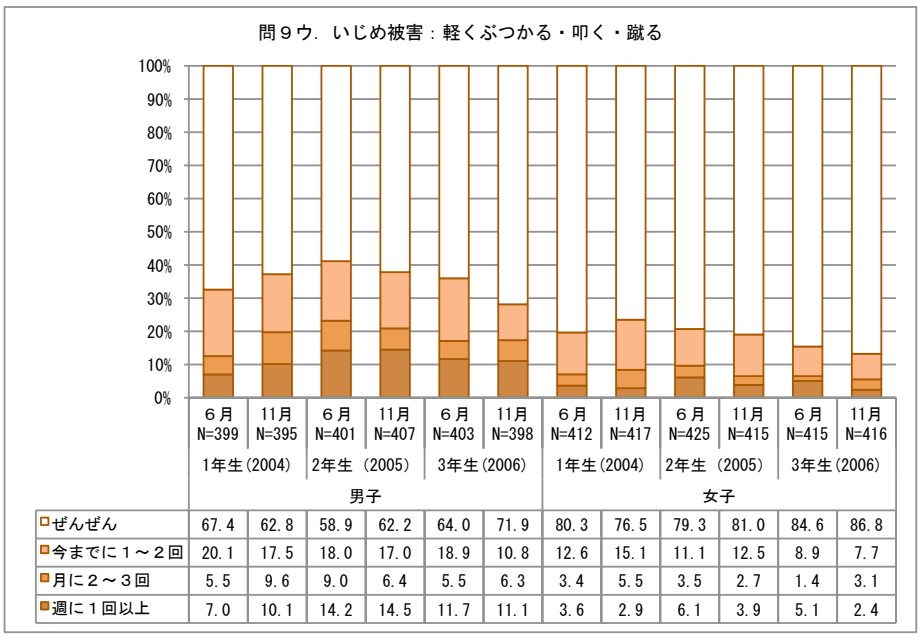


	男子						女子					
	６月 N=400	11月 N=395	６月 N=403	11月 N=409	６月 N=404	11月 N=397	６月 N=414	11月 N=418	６月 N=427	11月 N=416	６月 N=415	11月 N=416
	1年生(2004)		2年生（2005）		3年生(2006)		1年生(2004)		2年生（2005）		3年生(2006)	
ぜんぜん	59.0	50.9	53.6	59.2	62.1	67.8	58.2	49.8	50.8	62.0	63.9	72.4
今までに１～２回	21.8	22.8	21.1	18.3	18.3	15.6	23.7	29.9	27.4	21.4	20.0	15.1
月に２～３回	8.0	14.9	9.2	8.3	6.4	5.5	8.9	11.0	8.0	7.5	7.2	4.6
週に１回以上	11.3	11.4	16.1	14.2	13.1	11.1	9.2	9.3	13.8	9.1	8.9	7.9

○からかう・悪口

男女共に経験率は高いです。

１年生秋から２年生春にピークがあることが窺えます。



	男子						女子					
	６月 N=399	11月 N=395	６月 N=401	11月 N=407	６月 N=403	11月 N=398	６月 N=412	11月 N=417	６月 N=425	11月 N=415	６月 N=415	11月 N=416
	1年生(2004)		2年生（2005）		3年生(2006)		1年生(2004)		2年生（2005）		3年生(2006)	
ぜんぜん	67.4	62.8	58.9	62.2	64.0	71.9	80.3	76.5	79.3	81.0	84.6	86.8
今までに１～２回	20.1	17.5	18.0	17.0	18.9	10.8	12.6	15.1	11.1	12.5	8.9	7.7
月に２～３回	5.5	9.6	9.0	6.4	5.5	6.3	3.4	5.5	3.5	2.7	1.4	3.1
週に１回以上	7.0	10.1	14.2	14.5	11.7	11.1	3.6	2.9	6.1	3.9	5.1	2.4

○軽くぶつかる・叩く・蹴る

日本の場合、３番目に被害経験率が高い行為ですが、他の国では最も経験率が高いことが多い行為と言えます。

男子に多い傾向が窺えます。

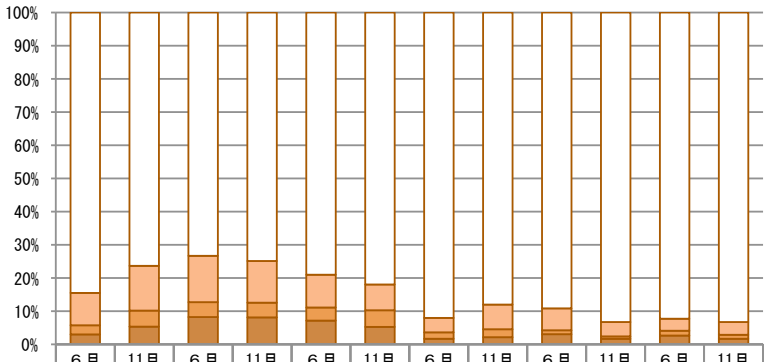
１年生秋から２年生にピークがあることが窺えます。

○ひどくぶつかる・叩く・蹴る

男子の被害経験率が高い傾向が窺えます。

１年生秋から２年生にピークがあることが窺えます。

問９エ．いじめ被害：ひどくぶつかる・叩く・蹴る



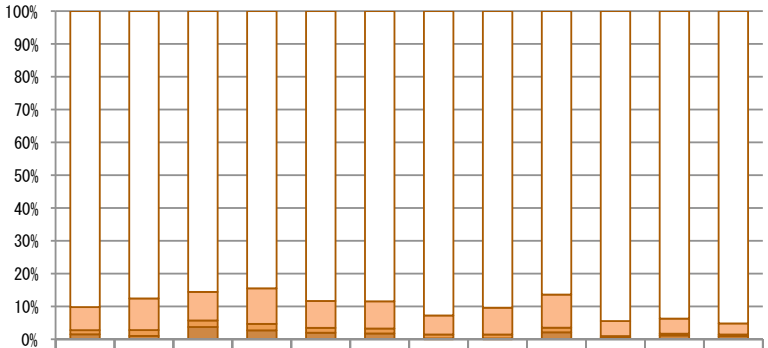
	男子						女子					
	６月 N=400	11月 N=393	６月 N=401	11月 N=406	６月 N=405	11月 N=399	６月 N=414	11月 N=417	６月 N=424	11月 N=416	６月 N=414	11月 N=416
	1年生(2004)		2年生（2005）		3年生(2006)		1年生(2004)		2年生（2005）		3年生(2006)	
ぜんぜん	84.5	76.3	73.3	74.9	79.0	82.0	92.0	88.0	89.2	93.3	92.3	93.3
今までに１～２回	9.8	13.5	14.0	12.6	9.9	7.8	4.3	7.4	6.6	4.3	3.6	3.8
月に２～３回	2.8	4.8	4.5	4.4	4.0	5.0	1.9	2.4	1.2	0.7	1.4	1.2
週に１回以上	3.0	5.3	8.2	8.1	7.2	5.3	1.7	2.2	3.1	1.7	2.7	1.7

○金銭強要・器物損壊

男女共に被害経験率は低いですが、やや男子に多い傾向が窺えます。

男子は１年生秋から２年生秋にかけて、女子は１年生秋から２年生春にかけて、ピークがあることが窺えます。

問９オ．いじめ被害：金銭強要・器物損壊



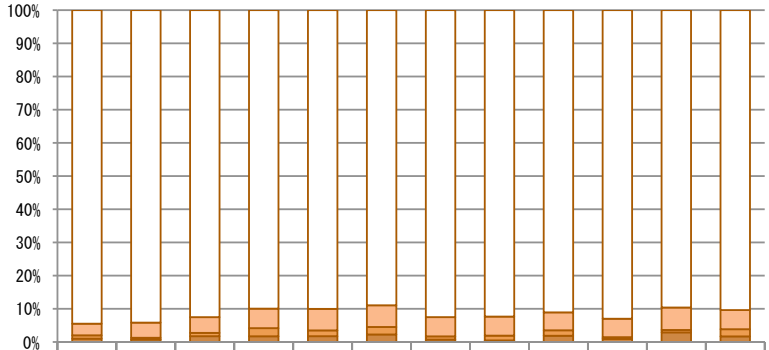
	男子						女子					
	６月 N=398	11月 N=394	６月 N=402	11月 N=406	６月 N=403	11月 N=398	６月 N=414	11月 N=416	６月 N=426	11月 N=415	６月 N=413	11月 N=415
	1年生(2004)		2年生（2005）		3年生(2006)		1年生(2004)		2年生（2005）		3年生(2006)	
ぜんぜん	90.2	87.6	85.6	84.5	88.3	88.4	92.8	90.4	86.4	94.5	93.7	95.2
今までに１～２回	7.0	9.6	8.7	10.8	8.2	8.3	5.8	8.2	10.1	4.6	4.6	3.4
月に２～３回	1.3	1.8	2.0	2.0	1.5	1.5	1.2	1.2	1.4	0.5	0.5	0.5
週に１回以上	1.5	1.0	3.7	2.7	2.0	1.8	0.2	0.2	2.1	0.5	1.2	1.0

○パソコン・携帯

男女共に、被害経験率は低い行為ですが、小学生と比べると高くなります。

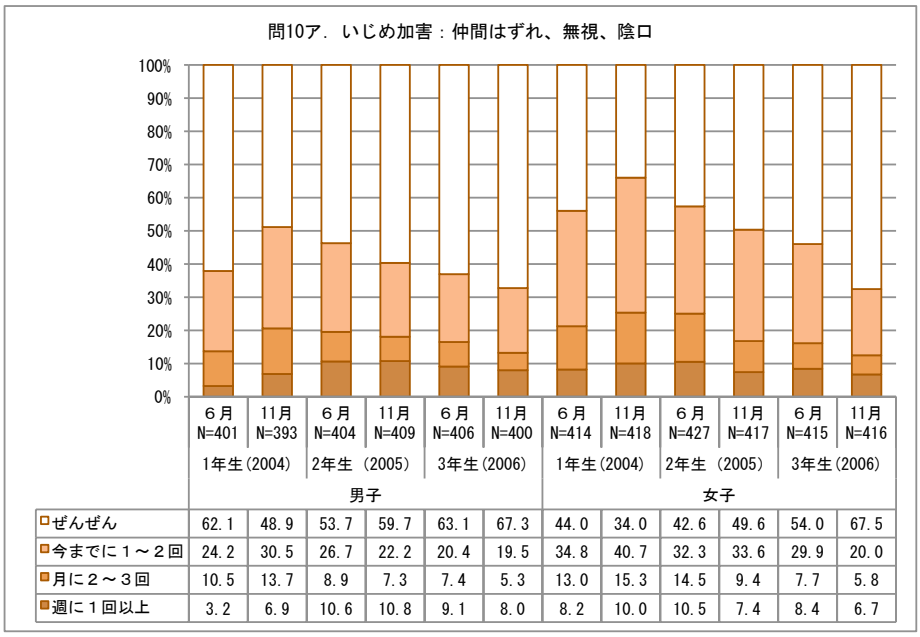
学年進行に伴い増加する傾向が窺えますが、時代が新しくなること（携帯電話の普及）の影響も考えられます。

問９カ．いじめ被害：パソコン・携帯



	男子						女子					
	６月 N=399	11月 N=394	６月 N=401	11月 N=408	６月 N=401	11月 N=398	６月 N=414	11月 N=418	６月 N=426	11月 N=414	６月 N=414	11月 N=416
	1年生(2004)		2年生（2005）		3年生(2006)		1年生(2004)		2年生（2005）		3年生(2006)	
ぜんぜん	94.5	94.2	92.5	90.0	90.0	88.9	92.5	92.3	91.1	93.0	89.6	90.4
今までに１～２回	3.5	4.6	4.7	5.9	6.5	6.5	5.8	5.7	5.4	5.6	6.8	5.8
月に２～３回	1.0	0.5	1.0	2.5	1.7	2.3	1.0	1.4	1.6	0.5	0.7	2.2
週に１回以上	1.0	0.8	1.7	1.7	1.7	2.3	0.7	0.5	1.9	1.0	2.9	1.7

■ 2004 年度　中学校１年生　いじめ加害経験率推移

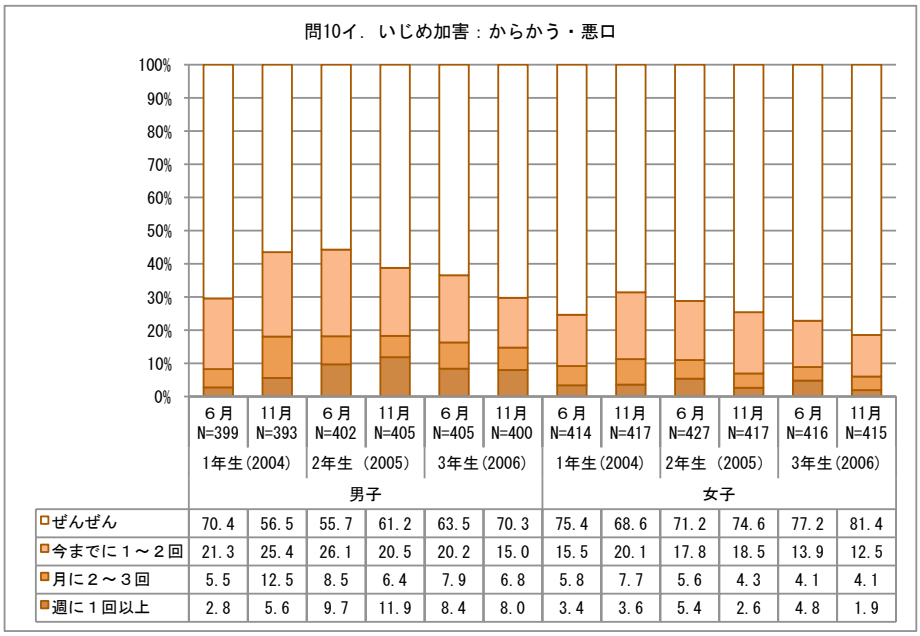


	男子						女子					
	６月 N=401	11月 N=393	６月 N=404	11月 N=409	６月 N=406	11月 N=400	６月 N=414	11月 N=418	６月 N=427	11月 N=417	６月 N=415	11月 N=416
	1年生(2004)		2年生（2005）		3年生(2006)		1年生(2004)		2年生（2005）		3年生(2006)	
ぜんぜん	62.1	48.9	53.7	59.7	63.1	67.3	44.0	34.0	42.6	49.6	54.0	67.5
今までに１～２回	24.2	30.5	26.7	22.2	20.4	19.5	34.8	40.7	32.3	33.6	29.9	20.0
月に２～３回	10.5	13.7	8.9	7.3	7.4	5.3	13.0	15.3	14.5	9.4	7.7	5.8
週に１回以上	3.2	6.9	10.6	10.8	9.1	8.0	8.2	10.0	10.5	7.4	8.4	6.7

○仲間はずれ・無視・陰口

男女共に加害経験率は高いですが、女子に多い傾向が窺えます。

男子は１年生秋から２年生春にかけて、女子は１年生秋から２年生春にかけてピークがあることが窺えます。

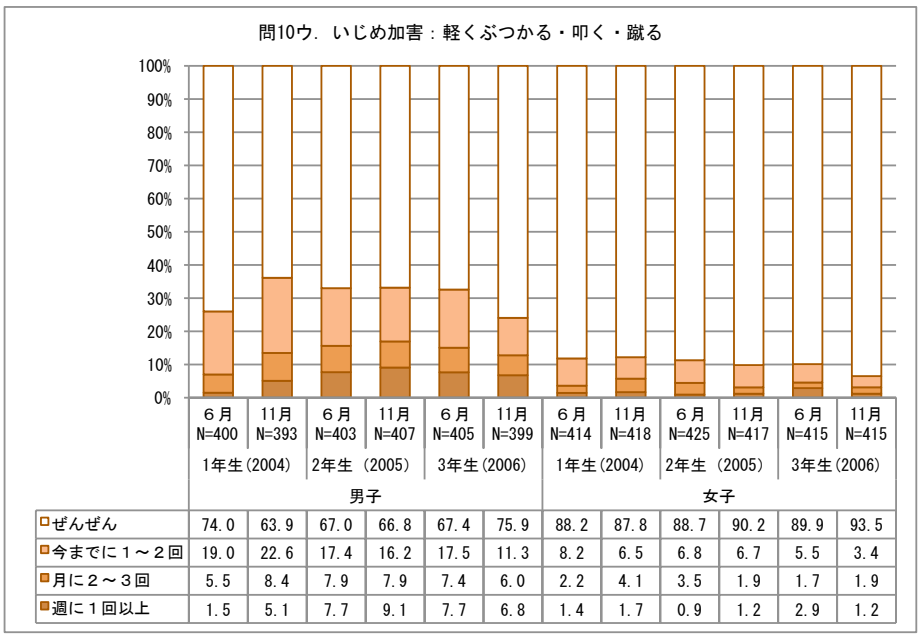


	男子						女子					
	６月 N=399	11月 N=393	６月 N=402	11月 N=405	６月 N=405	11月 N=400	６月 N=414	11月 N=417	６月 N=427	11月 N=417	６月 N=416	11月 N=415
	1年生(2004)		2年生（2005）		3年生(2006)		1年生(2004)		2年生（2005）		3年生(2006)	
ぜんぜん	70.4	56.5	55.7	61.2	63.5	70.3	75.4	68.6	71.2	74.6	77.2	81.4
今までに１～２回	21.3	25.4	26.1	20.5	20.2	15.0	15.5	20.1	17.8	18.5	13.9	12.5
月に２～３回	5.5	12.5	8.5	6.4	7.9	6.8	5.8	7.7	5.6	4.3	4.1	4.1
週に１回以上	2.8	5.6	9.7	11.9	8.4	8.0	3.4	3.6	5.4	2.6	4.8	1.9

○からかう・悪口

男女共に加害経験率は高いですが、男子に多い傾向が窺えます。

１年生秋から２年生春にピークがあることが窺えます。



	男子						女子					
	６月 N=400	11月 N=393	６月 N=403	11月 N=407	６月 N=405	11月 N=399	６月 N=414	11月 N=418	６月 N=425	11月 N=417	６月 N=415	11月 N=415
	1年生(2004)		2年生（2005）		3年生(2006)		1年生(2004)		2年生（2005）		3年生(2006)	
ぜんぜん	74.0	63.9	67.0	66.8	67.4	75.9	88.2	87.8	88.7	90.2	89.9	93.5
今までに１～２回	19.0	22.6	17.4	16.2	17.5	11.3	8.2	6.5	6.8	6.7	5.5	3.4
月に２～３回	5.5	8.4	7.9	7.9	7.4	6.0	2.2	4.1	3.5	1.9	1.7	1.9
週に１回以上	1.5	5.1	7.7	9.1	7.7	6.8	1.4	1.7	0.9	1.2	2.9	1.2

○軽くぶつかる・叩く・蹴る

日本の場合、３番目に加害経験率が高い行為ですが、他の国では最も経験率が高いことが多い行為と言えます。

男子に多い傾向が窺えます。

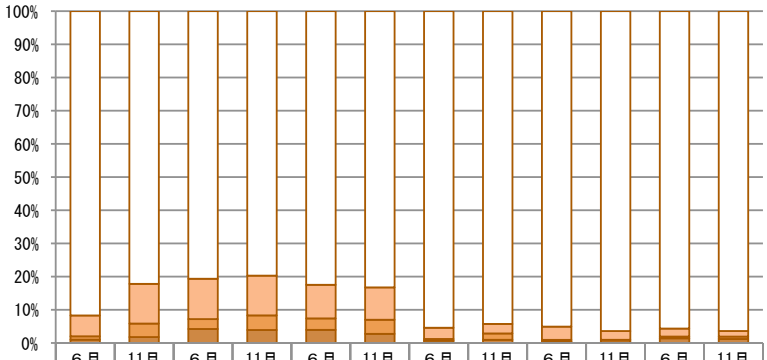
学年進行に伴う傾向ははっきりしませんが、男子は１年生春と３年生秋に少なく、女子は２年の秋以降、やや減少するようです。

○ひどくぶつかる・叩く・蹴る

男子の加害経験率が高い傾向が窺えます。

学年進行に伴う傾向ははっきりしませんが、男子は１年生春と３年生秋、女子は２年の秋以降は、減少するようです。ただし、頻度の高い加害に着目すると、３年生の春も高いと言えます。

問10エ．いじめ加害：ひどくぶつかる・叩く・蹴る



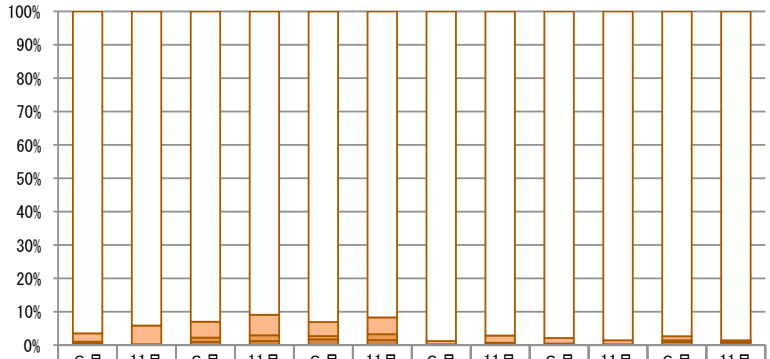
	男子						女子					
	6月 N=398	11月 N=393	6月 N=403	11月 N=409	6月 N=405	11月 N=400	6月 N=414	11月 N=418	6月 N=426	11月 N=417	6月 N=414	11月 N=416
	1年生(2004)		2年生（2005）		3年生(2006)		1年生(2004)		2年生（2005）		3年生(2006)	
ぜんぜん	91.7	82.2	80.6	79.7	82.5	83.3	95.4	94.3	95.1	96.4	95.7	96.4
今までに１～２回	6.3	12.0	12.2	12.0	10.1	9.8	3.4	2.9	4.0	2.6	2.4	1.7
月に２～３回	1.0	4.1	3.0	4.4	3.5	4.3	0.5	1.9	0.5	0.7	0.5	0.7
週に１回以上	1.0	1.8	4.2	3.9	4.0	2.8	0.7	1.0	0.5	0.2	1.4	1.2

○金銭強要・器物損壊

男女共に加害経験率は低いですが、男子に多い傾向が窺えます。

男女とも、２年・３年で多いようです。

問10オ．いじめ加害：金銭強要・器物損壊



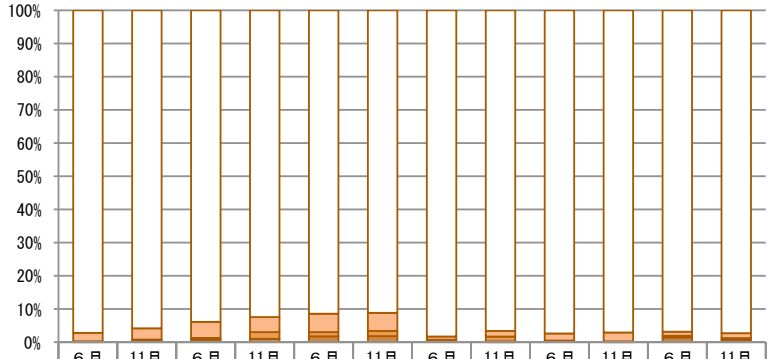
	男子						女子					
	6月 N=397	11月 N=392	6月 N=400	11月 N=407	6月 N=405	11月 N=398	6月 N=414	11月 N=417	6月 N=426	11月 N=414	6月 N=414	11月 N=415
	1年生(2004)		2年生（2005）		3年生(2006)		1年生(2004)		2年生（2005）		3年生(2006)	
ぜんぜん	96.5	94.1	93.0	90.9	93.1	91.7	98.8	97.1	97.9	98.6	97.3	98.6
今までに１～２回	2.5	5.6	4.8	6.1	4.2	5.0	1.0	2.2	1.6	1.2	1.2	0.2
月に２～３回	0.5	0.0	1.3	1.7	1.0	1.8	0.2	0.5	0.0	0.0	0.5	0.2
週に１回以上	0.5	0.3	1.0	1.2	1.7	1.5	0.0	0.2	0.5	0.2	1.0	1.0

○パソコン・携帯

男女共に、加害経験率は低い行為ですが、小学生と比べると高くなります。

学年進行に伴い増加する傾向が窺えますが、時代が新しくなること（携帯電話の普及）の影響も考えられます。

問10カ．いじめ加害：パソコン・携帯



	男子						女子					
	6月 N=394	11月 N=384	6月 N=393	11月 N=397	6月 N=397	11月 N=385	6月 N=412	11月 N=415	6月 N=421	11月 N=412	6月 N=413	11月 N=407
	1年生(2004)		2年生（2005）		3年生(2006)		1年生(2004)		2年生（2005）		3年生(2006)	
ぜんぜん	97.2	95.8	93.9	92.4	91.4	91.2	98.3	96.6	97.4	97.1	96.9	97.3
今までに１～２回	2.5	3.4	4.8	4.5	5.5	5.5	1.0	1.7	2.1	2.7	1.2	1.5
月に２～３回	0.0	0.3	0.5	2.0	1.3	1.6	0.7	1.4	0.0	0.0	0.5	0.5
週に１回以上	0.3	0.5	0.8	1.0	1.8	1.8	0.0	0.2	0.5	0.2	1.5	0.7

文部科学省
国立教育政策研究所
National Institute for Educational Policy Research

編集　生徒指導研究センター
ＴＥＬ 03-6733-6880
ＦＡＸ 03-6733-6967